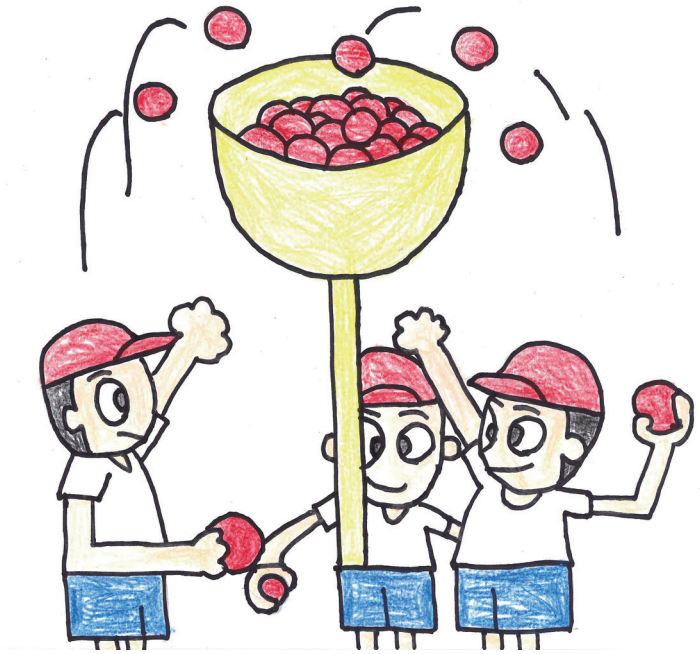
埼玉県　まなびいプロジェクト協賛事業
羽生市　学びあい夢プロジェクト事業

第6回埼玉純真短期大学　研究セミナー

子どもの思いに寄り添う
～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～



平成28年10月15日(土)

会場　埼玉純真短期大学

主催　埼玉純真短期大学

後援　埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会
行田市教育委員会・加須市教育委員会
熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会

目次

１．目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．発刊のことば　・・・・・・・・・・・・・埼玉純真短期大学学長　藤田　利久・・　２

３．開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

４．講座

講座１　　講師・・・・・発達支援教室ビリーブ代表・文教大学　加藤　博之・・　５
埼玉純真短期大学教授　小澤　和恵・・　５
司会・記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・加藤　房江・・　８

講座２　　講師・・・・・・・・・・・・埼玉純真短期大学准教授　安倍　大輔・・１１
司会・記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・持田　京子・・１４

講座３　　講師・・加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　藤井　真仁・・１６
埼玉純真短期大学准教授　稲垣　　馨・・１６
司会・記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・牛込　彰彦・・２０

講座４　　講師・・・・ 全国 LD 親の会　埼玉親の会「麦」代表　矢崎　弘美・・２３
埼玉純真短期大学教授　伊藤　道雄・・２３
司会・記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・丸山　アヤ子・２９

５．全体会

実践報告
発表者・・・・さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティア　浅川　光行ほか３２
司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　　猛・・３２
記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・金子　恵美子・３２

講演
講師・・・・・・・・・・・・アスリート（マラソンランナー）　金子　　遼・・４７
金子　準一郎
金子　亜矢子
司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　　猛・・４７
記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・細田　香織・・４７

７．アンケート報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　　猛・・５６

８．あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・埼玉純真短期大学教授　伊藤　道雄・・６２

発刊のことば

平成 28 年度「特別支援教育・発達障がい研究セミナー」は、「子どもの思いに寄り添う～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～」と題して、10 月 15 日に開催されました。

午前の部は「音楽・音を楽しむ授業づくり」「心を通わせる身体活動」「障がいのある子の教育指導・支援」・「障がいのある子の子育てと支援」のワークショップが開かれました。

この講座では、発達支援教室ビリーブ代表の加藤先生、加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事の藤井先生、全国ＬＤ親の会埼玉親の会「麦」代表の矢崎先生にご指導とご助言をいただきました。

午後の部は「あたたかいクラスづくりのサポーター～ボランティアとして学級に入る～」と題して、さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティアコーディネーターの浅川光行様から実践報告がございました。最後の講演ではご自身が障害を持ち、福岡国際マラソンに出場するなど多くのマラソン大会に参加し、知的障がい者マラソン世界記録（2時間24分）保持者の金子遼さんに小学校（通常学級）時代、中学校からの特別支援学校時代の生活やマラソンとの出会いなどにつきましてお話をいただきました。

以上のような内容で、教育現場で日々ご熱心な取り組みをされている先生はじめ多くの方々のご参加をいただき、今回の研究セミナーも無事終えることができました。

本研究セミナーを開催しておりますこの時期は学校や地域でも秋の行事が多く、何かとお忙しいときでございましたが、埼玉県教育局特別支援教育課長の宇田川先生、羽生市教育長の秋本先生、埼玉県特別支援教育研究会会長の永妻先生はじめ多くの方々にご参加いただきましたこと、あらためて御礼申しあげます。

この研究セミナーは平成 19 年度より平成 21 年までの 3 年間にわたって実施しました文部科学省委託事業「軽度発達障害の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム」を引き継ぐかたちで実施いたしております。

現代は「ノーマライゼイション」や「特別支援」のことばを抜きにして、教育現場でも一般社会でもいかなる活動も考えることはできません。このような状況の中、委託事業の内容を継続して、教育に取り組まれる先生方や地域の皆さまと情報の交換・共有を行い、お互いの理解を深め、少しでも教育現場や地域社会のお役にたてればとの考えで、埼玉県・羽生市・行田市・加須市・熊谷市の教育委員会はじめ多くの方々からのご支援をいただき「特別支援教育・発達障がい研究セミナー」として開催しております。

幼児教育の小さな大学の研究セミナーではございますが、地域に根差したひとつひとつの積み重ねで、より多くの方々に「特別支援教育」への理解が進み、支援の広がりへと繋がっていくことを願ってやみません。

最後に、今大会の運営と本報告書作成にあたって頂きました研究セミナー実行委員長の伊藤道雄先生はじめ運営に携わっていただきました皆さまに心より御礼申しあげます。

来年、そして再来年と本研究セミナーがさらなる発展を目指して継続されますことをお祈り申しあげ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

埼玉純真短期大学
学長　藤田　利久

埼玉県まなびぃプロジェクト協賛事業
羽生市　学びあい夢プロジェクト事業
埼玉純真短期大学　第６回特別支援教育・発達障がい研究セミナー開催要項

子どもの思いに寄り添う
～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～

日　時　　平成２８年１０月１５日（土）
会　場　　埼玉純真短期大学
主　催　　埼玉純真短期大学
後　援　　埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会
　　行田市教育委員会・加須市教育委員会
　　熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会
参加者　特別支援教育・発達障がい等に関心のある方

日　程

9:30	10:30～12:30	12:30～13:30	13:30～13:50	13:50～14:50	15:00～16:00
受付	講座(1・2・3・4)	昼　食	全体開会行事	実践報告	講　演

講演　15:00～16:00
「私の生きがい･やりがい」

金子　遼　アスリート（マラソンランナー）
（父　金子準一郎　　母　金子亜矢子）

現在、知的障害者のアスリートとして活躍中です。2012 年の福岡国際マラソン大会で知的障がい者世界記録を達成する。2015 年の防府読売マラソン大会で 2 時間 24 分と自らの記録を更新する。小学校の通常の学級、中学校の特別支援学級、特別支援学校高等部を卒業する。学校生活を通して感じたことや自分のやりがい、生きがいを語って頂きます。国際大会でのメダル獲得を夢に、日々の練習に励んでいます。また、ご両親にこれまでの子育ても語って頂きます。

実践報告　13:50～14:50
「あたたかいクラスづくりのサポーター～ボランティアとして学級に入る～」

浅川　光行　さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティアコーディネーター

あたたかい学級づくりの実現のために、学習支援ボランティアを組織し、一人一人を大切にする教育への支援活動を行っています。約 40 名の学習支援ボランティア員が学校からの要請に合わせて各クラスに入ります。活動の紹介や活動を通して学習支援ボランティア員が感じたことをお話し頂きます。

講座１　10:30～12:30

「音楽・音を楽しむ授業づくり」

発達支援教室ビリーブ代表・文教大学　　加藤博之
埼玉純真短期大学教授　　小澤和恵

「リトミック活動～音楽と身体の動き～」をテーマにワークショップを行います。気になる子を含めたすべての子どもが生き生きと活躍する音楽活動を提案します。簡単な運動のできる服装でご参加ください。

講座２　10:30～12:30

「心を通わせる身体活動」

埼玉純真短期大学准教授　　安倍大輔

からだを使ったゲーム等の活動から、楽しくからだを動かし、人とかかわる力を高めます。一緒にゲームを楽しみ、心を通わせるからだの動きを知ります。運動のできる服装、体育館シューズをご持参ください。

講座３　10:30～12:30

「障がいのある子の教育指導・支援」

加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　　藤井真仁
埼玉純真短期大学准教授　　稲垣　馨

「インクルーシブ教育システムの構築」を目指す中で、基礎的環境整備や一人一人への合理的配慮が求められています。参会者の皆様が抱える具体的な事例を通して必要な支援を考えます。

講座４　10:30～12:30

「障がいのある子の子育てと支援」

全国ＬＤ親の会　埼玉親の会「麦」代表　　矢崎弘美
埼玉純真短期大学教授　　伊藤道雄

小中学校等に在籍する障がいのある子の子育ての悩みを共に考えます。参会者の皆様が抱える課題を共に語り合います。

講座１

音楽・音を楽しむ授業づくり

発達支援教室ビリーブ代表・文教大学　　加藤博之先生
埼玉純真短期大学教授　　小澤和恵先生

「リトミック活動～音楽と身体の動き～」をテーマに、気になる子を含めたすべての子どもが生き生きと活躍する音楽活動を提案します。

＜イントロダクション＞

埼玉純真短期大学　小澤和恵

１．音楽活動における音楽の意義
①音楽は、非言語的特性によりコミュニケーションの手段として自在に用いられる。
②音楽は、正しいか間違っているといった判断をされる必要のない活動をつくりやすい。
③音楽は、身体活動を誘いやすく、また身体活動の調整機能をもつ。
④音楽は、音楽以外の活動と組み合わせることができる。
⑤音楽は、グループ活動の中に取り入れやすい。
⑥音楽は、障がいや様々な問題を抱える人と、そうでない人とがともに楽しめる活動を作ることができる。

２．リトミック活動とは
スイスの音楽教育家・作曲家であったエミール・ジャック=**ダルクローズ**（1865～1950）によって提唱された、音楽と動きの融合によって、心と身体の調和と発達を目指した教育方法で、創造的人間形成を目指す。

①リトミックの教育的効果
＜音楽的効果＞
音の強弱や高低・速さ、フレーズや拍子など、音楽の様々な要素を、身体を使って体験することによって、聴く耳を育て、音楽的能力（技能・表現力）を高める。
＜音楽的なこと以外＞
身体的　―　運動能力、身体調整能力、反射神経能力の発達、
認知・精神的　―　集中力、記憶力、判断力、理解力、自発性、表現力、創造力、想像力の発達
時間と空間の認識の発達、心身の安定感、充足感、達成感

②リトミックの学習内容（リトミックサブジェクト）
・強弱　・大小　・速度　・音の高低　・拍子　・リズム　・緊張と弛緩　・停止と続行

「知っている」→「体験する」
・大きいって？　小さいって？　速いって？　遅いって？　高いって？　低いって？
・♩　（　　）
・♫　（　　）
・𝅗𝅥　（　　）
※「音符の名前や拍数を知っている」→「表現する」ことが大切

＜本篇＞

発達支援教室ビリーブ・文教大学　加藤　博之

１．特別支援教育におけるリトミック活動

①まずは音楽を子どもの動きに合わせる
②子どもが自分の動きに音楽が合っていることに気づく
③その時点から、今度は徐々に音楽が子どもを巻き込んでいく
④子どもが音楽に合わせる

発達に課題のある子どものリトミック活動のねらいは…

・情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作
・即時反応、適応力、自己コントロール
・音楽と動きの一体化
・他者との一体感、集団適応

２．リトミック活動を行う際の注意事項

・音楽に従わせるのではなく、音楽と一体感を作っていくこと
・音楽の使い方を配慮すること
・子どものいろいろな表現を認めていく
・大人自身が豊かな表現を行う
・子どもの動きは発達段階に応じて求めていく

３．いろいろなタイプの子どもへのリトミック活動

・情緒的に不安定な子

・思う存分、発散できる活動
・発散的な活動（動的な活動）と落ち着ける活動（静的な活動）の組み合わせ
・静止する力の獲得、柔らかい動きの獲得

・マイペースが強い子

・身体揺らし遊び（２人組）
・集団遊び、２～４人組になろう

・身体の使い方に課題がある子

・合図に合わせて動く（静止、ゆっくり歩く）
・歌や楽器

・人への意識が弱い子

・身体揺らし遊び、アルプス一万尺（２人組）
・集団遊び、２～４人組になろう

・イメージする力が弱い子

・リトミック（ぞう、うさぎ、ちょうちょ、ひこうき、などの動き）
・曲あてクイズ、楽器あてクイズ

・発音が不明瞭な子
・リトミック（動きながら曲を聴きとる、曲の変化を聴き取る）
・曲あてクイズ、楽器あてクイズ
・歌（歌詞を聴く、曲調を変えて演奏する）

４．リトミック活動を体験しよう
（１）２人組で遊ぼう
◎身体揺らし遊び（ゆーらゆーら）
＜ねらい＞前庭・固有感覚の受け入れ、スキンシップ、ボディイメージの高まり、音楽と動きの一体化、人への意識の高まり、相手とのやりとり、適応力、遊びの創造

◎アルプス一万尺、あっちむいてホイ
＜ねらい＞身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣、両手の協応、音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得、人に合わせる力、コミュニケーション能力、イメージする力、遊びの創造

（２）大勢で遊ぼう
◎頭トントン
＜ねらい＞身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣、音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得、人に合わせる力、コミュニケーション能力の高まり、イメージする力、遊びの創造

◎しあわせなら手をたたこう
＜ねらい＞ボディイメージ、動作模倣、音楽と動きの一体化、コミュニケーション、即時反応、遊びの創造（イメージ）

◎リトミック（曲に合わせて動こう）
＜ねらい＞情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作、即時反応、適応力、自己コントロール、音楽と動きの一体化
◎オオカミなんかこわくない（即時反応）
＜ねらい＞情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作、即時反応、適応力、
自己コントロール、音楽と動きの一体化、身体への受け入れ、人への意識の高まり

◎輪になって踊ろう（集団遊び）
＜ねらい＞音楽と動きの一体化、人への意識の高まり、身体への受け入れ、人に合わせる力、社会性

◎小集団遊び（２人、３人、４人…たいこの数だけ集まろう）
＜ねらい＞即時反応、音楽と動きの一体化、対人意識、数の概念

◎ボール遊び
＜ねらい＞コミュニケーション、相手への意識（名前）、運動の調整、社会性、ルール理解、前後・左右・高低などへの意識（ボディイメージ）、音楽と動きの一体化

講座１
「記録」

音楽・音を楽しむ授業づくり

発達支援教室ビリーブ代表・文教大学　　加藤博之先生
埼玉純真短期大学教授　　小澤和恵先生

講座１では、「音楽・音を楽しむ授業づくり」というテーマで、＜イントロダクション＞では、理論的に、＜本篇＞では、実践的に学ぶ講座になっていた。

「リトミック活動～音楽と身体の動き～」をテーマに、気になる子を含めたすべての子どもが
生き生きと活躍する音楽活動を提案します。

＜イントロダクション＞

1. 音楽活動における音楽の意義

①音楽は、非言語的特性によりコミュニケーションの手段として自在に用いられる。
②音楽は、正しいか間違っているといった判断をされる必要のない活動をつくりやすい。
③音楽は、身体活動を誘いやすく、また身体活動の調整機能をもつ。　（例：ラジオ体操など）
④音楽は、音楽以外の活動と組み合わせることができる。　（例：お話、バックミュージックなど）
⑤音楽は、グループ活動の中に取り入れやすい。　（一人でも、二人でも、多くの人数でもできる）
⑥音楽は、障がいや様々な問題を抱える人と、そうでない人とがともに楽しめる活動を作ることができる。

2. リトミック活動とは

スイスの音楽教育家・作曲家であったエミール・ジャック=ダルクローズ(1865～1950)によって提唱された、音楽と動きの融合によって、心と身体の調和と発達を目指した教育方法で、創造的人間形成を目指す。①リトミックの教育的効果

＜音楽的効果＞

音の強弱や高低・速さ、フレーズや拍子など、音楽の様々な要素を、身体を使って体験することによって、聴く耳を育て、音楽的能力（技能・表現力）を高める。

＜音楽的なこと以外＞

身体的　―　運動能力、身体調整能力、反射神経能力の発達、認知・精神的　―　集中力、記憶力、判断力、理解力、自発性、表現力、創造力、想像力の発達、時間と空間の認識の発達、心身の安定感、充足感、達成感

②リトミックの学習内容

・強弱　・大小　・速度　・音の高低　・拍子　・リズム　・緊張と弛緩　・停止と続行

＊音、音楽は、始まりと終わりがあり、活動において大切な要素。

「知っている」→「体験する」　＊頭で分かっていても、表現においては意味のないこと、
体験することで、本当に理解していく。

・大きいって？　小さいって？　速いって？　遅いって？　高いって？　低いって？

・♩　（　　）　　・♫　（　　）

・𝅗𝅥　（　　）

※「音符の名前や拍数を知っている」→「表現する」ことが大切

＜本篇＞

1. 特別支援教育におけるリトミック活動

①まずは音楽を子どもの動きに合わせる　②子どもが自分の動きに音楽が合っていることに気づく

③その時点から、今度は徐々に音楽が子どもを巻き込んでいく

④子どもが音楽に合わせる　・子どもの声を聞き、その日の調子をみるバロメーターである。

発達に課題のある子どものリトミック活動のねらいは…

・情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作

・即時反応、適応力、自己コントロール　　・音楽と動きの一体化

・他者との一体感、集団適応

＊音楽に合わせるのが難しい子も、ずれると気持ち悪さを感じる。こちらが合わせることで、合った時に気持ちよさを感じる。このことが、社会性に結びついていく。寄り添って合わせていくことで、とても心地良いということを感じる。

2. リトミック活動を行う際の注意事項

・音楽に従わせるのではなく、音楽と一体感を作っていくこと

・音楽の使い方を配慮すること　　・子どものいろいろな表現を認めていく

・大人自身が豊かな表現を行う

＊大人が楽しそうにすることで、子どもがやりたい流れを作る。

・子どもの動きは発達段階に応じて求めていく

＊やらない子に無理にやらせることではない。待ちながら、どんな行動がでるか見守る。何のためにこの活動をやっているのか目的を考え、保護者に専門的に説明できるようにする。

3. いろいろなタイプの子どもへのリトミック活動

・情緒的に不安定な子　　・思う存分、発散できる活動

・発散的な活動（動的な活動）と落ち着ける活動（静的な活動）の組み合わせ

・静止する力の獲得、柔らかい動きの獲得

＊発散することをメインにしてコントロールをする場をつくる。

セーブすることの方が難しく、早い動きより、ゆっくりの方が難しい。

・マイペースが強い子

・身体揺らし遊び（２人組）

・集団遊び、２～４人組になろう

＊苦手な子には、点でかかわる。（ハイタッチなど）

・人への意識が弱い子

・身体揺らし遊び、アルプス一万尺（２人組）

・集団遊び、２～４人組になろう

・イメージする力が弱い子

・リトミック（ぞう、うさぎ、ちょうちょ、ひこうき、などの動き）

・曲あてクイズ、楽器あてクイズ

・身体の使い方に課題がある子

・合図に合わせて動く（静止、ゆっくり歩く）

・歌や楽器

・発音が不明瞭な子

・リトミック（動きながら曲を聴きとる、曲の変化を聴き取る）　・曲あてクイズ、楽器あてクイズ

・歌（歌詞を聴く、曲調を変えて演奏する。

＊音楽を変えると動きも変わるので、聞き分ける力がつく。耳で聞き分ける力の弱い子に有効で、話す力に繋がっていく。

4. リトミック活動を体験しよう　(1)　2人組で遊ぼう

◎身体揺らし遊び（ゆーらゆーら）

＜ねらい＞前庭・固有感覚の受け入れ、スキンシップ、ボディイメージの高まり、音楽と動きの一体化、人への意識の高まり、相手とのやりとり、適応力、遊びの創造

＊模倣が得意でない子どもに有効。前段階で手をつないで一緒に同じ行動を行い、気持ちが感じ合える。

◎アルプス一万尺、あっちむいてホイ

＜ねらい＞身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣、両手の協応、音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得、人に合わせる力、コミュニケーション能力、イメージする力、遊びの創造

＊終点を学ぶ場。終点を大げさにゆっくり明確にすることで、次に繋げる始まりができる。情緒の安定。

(2)　大勢で遊ぼう

◎頭トントン　（ダンスの前段階として、道具を使った道具模倣をたくさん取り入れることは有効。）

＜ねらい＞身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣、音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得、人に合わせる力、コミュニケーション能力の高まり、イメージする力、遊びの創造　＊模倣はこの人と同じことがやりたいという気持ちの表れ。

◎しあわせなら手をたたこう

＜ねらい＞ボディイメージ、動作模倣、音楽と動きの一体化、コミュニケーション、即時反応、遊びの創造（イメージ）

◎リトミック（曲に合わせて動こう）

＜ねらい＞情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作、即時反応、適応力、自己コントロール、音楽と動きの一体化

◎オオカミなんかこわくない（即時反応）

＜ねらい＞情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作、即時反応、適応力、自己コントロール、音楽と動きの一体化、身体への受け入れ、人への意識の高まり

◎輪になって踊ろう（集団遊び）

＜ねらい＞音楽と動きの一体化、人への意識の高まり、身体への受け入れ、人に合わせる力、社会性

＊人と体のぶつかり合いの遊びをたくさん経験している子は、切れにくいと言われている。

◎ボール遊び

＜ねらい＞コミュニケーション、相手への意識（名前）、運動の調整、社会性、ルール理解、前後・左右・高低などへの意識（ボディイメージ）、音楽と動きの一体化

まとめ

◎両先生方の楽しく、リトミックの実践的な講座で、障がいのある子も健常な子にも、直ぐに現場で使える内容だった。リトミック活動を行なう上での注意事項や配慮なども講義していただき、講座に参加された方々と一体感を感じられ、有意義な時間が過ごせた。

（文責　埼玉純真短期大学　加藤房江）

講座２

心を通わせる身体活動

埼玉純真短期大学准教授　　安倍大輔先生

埼玉純真短期大学
第6回研究セミナー　講座2

2016年10月15日
埼玉純真短期大学　安倍大輔

1. レクリエーションとは？

- 語源から考える

Re + Creation
Re・・・・
Creation(Create)・・・

レクリエーションの3要素

- **G・・・**
- **S・・・**
- **D・・・**

- レクリエーション（広辞苑より）
＝仕事や勉強の疲れを、休養や娯楽によって精神的・肉体的に回復すること。またそのために行うキ休養や娯楽

（新明解国語辞典より）
＝仕事・勉強の疲れをほぐし、明日の活動への活力を導くための休養と娯楽

現代社会におけるレクリエーションへの「期待」

「生活者（＝参加者）の立場から
- ①コミュニケーションの促進
- ②健康づくり
- ③ライフスタイルの充実
- ④地域づくり

①コミュニケーションの促進
クラスや職場の仲間と親しくなり、お互いを理解するためにコミュニケーションを促進する。

②健康づくり
介護予防、生活習慣病予防として

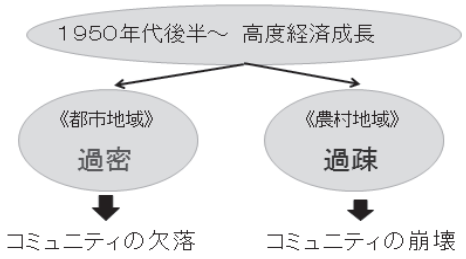
③ライフスタイルの充実

- 充実した余暇を持ったライフスタイルを実現するために。

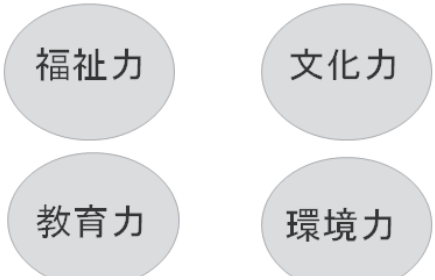
④地域づくり

人と人とのつながりを創り、それを基にした地域づくりが行われる。

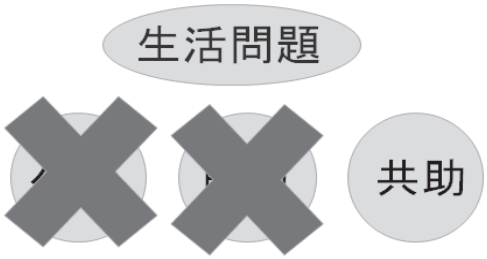
地域の状況



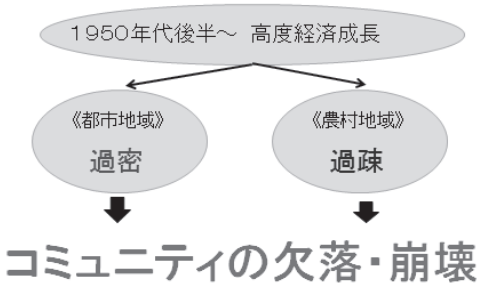
地域の持つ力



もし何かあったら・・・



地域の状況



新しいコミュニティの創造

アイスブレイキングの意義

- 目指すべき対象者の良好な変化、変容に向けたレクリエーション支援
- そのために「無理なく」、「無駄なく」、「快く」、「楽しさ」といったような前向きな感情や行動を共有できる、集団の雰囲気を構築することが目的。

アイスブレイキングの基本的な考え方

・・一体感・安心感の共有

みんなと一つになった感覚が集団全員に共有される状態を目指す。

「一体感・安心感が共有されている状態」

「安心して応援できる、周囲の人と一緒になって何かできる楽しさ」

アイスブレイキングのステップ

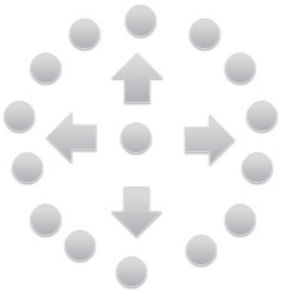
「氷が溶けるように徐々に」とは？

・個人対個人（1対1）、身体接触（手をつなぐ、身体をお互いに近づける等）を伴うものはハードルが高い

・失敗したのが目立つような、個人にスポットが当たりやすい雰囲気は積極的に参加しにくい

アイスブレイキングのプロセス

（1）個（支援者）　対　全体（参加者）



円になる場合は参加者全員に目を配る

（2）小グループでの活動

（3）１対１の活動

＊身体接触を伴う活動は段階を踏む。また対象者同士の関係性を考慮する。

アイスブレイキングの意義

- 目指すべき対象者の良好な変化、変容に向けたレクリエーション支援
- そのために「無理なく」、「無駄なく」、「快く」、「楽しさ」といったような前向きな感情や行動を共有できる、集団の雰囲気を構築することが目的。

アイスブレイキングの基本的な考え方

（1）一体感・安心感の共有

みんなと一つになった感覚が集団全員に共有される状態を目指す。

「一体感・安心感が共有されている状態」

「安心して応援できる、周囲の人と一緒になって何かできる楽しさ」

講座２
「記録」

心を通わせる身体活動

埼玉純真短期大学准教授　　安倍大輔先生

研究セミナー「心を通わせる身体活動について」の講座は２年生の中島さんの司会のもとで、明るく温かい雰囲気の中で、始まりました。安部先生から前半にレクレーションの意味について講義を頂き、後半はそれらを基に実技実践についてご指導いただきました。

レクレーションの意味

レクレーションは「仕事や勉強の疲れを、休養や娯楽によって精神的、肉体的に回復すること（広辞苑より）」というようにリフレッシュすることと考えられています。また、日本では「余暇」と訳されていますが、レクレーションは単に余暇だけでなくもっと積極的に新しく創造的にリフレッシュするという意味も含まれています。さらに、子どもにはそれらを提供される権利があるのです。

レクレーションの現代的な意味

① コミュニケーションの促進　本学の学内研修やオープンキャンパスでは、まずレクレーションをしています。職場も同じでしょう。レクにおいて一緒に楽しみ、課題解決をしながらコミュニケーションをとることが出来るのです。これらは例えばサッカーのチームを指導する際でも行われていることです。

② 健康づくり　単に健康づくりはスポーツだけでなく、より気軽に身体を動かすという意味をも含んでいるのです。これらは介護予防、生活習慣病予防にもつながります。

③ ライフスタイルの充実　現在はネット社会であり、それらを基に充実した余暇を過ごすことが多くなり楽しむことなど、様々な形で行われています。

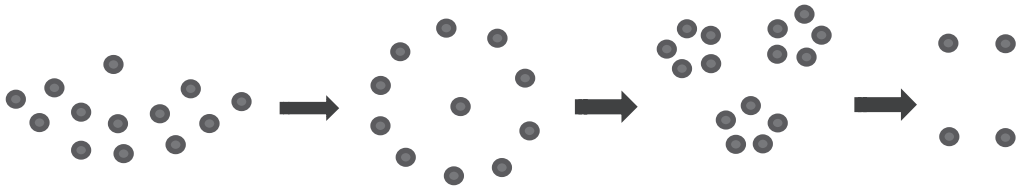
④ 地域づくり　東京オリンピックの頃は人が中心の世の中でしたが、現代は地域の過疎化によりコミュニケーションの崩壊が起こり、また過密化している都会においても、引っ越しをして近隣に挨拶がないなどのコミュニケーションの欠落が見られ、生きづらくなったともいえます。地域社会ではさらに子供会の減少により、地域の持つ文化を伝承する力の欠落が見えます。また私の父親は自分の子どもでなくても、悪いことをしたら叱る、注意することがよくありましたが、現在は他の子どもを叱るということも見られなくなりました。このように近所づきあいも少なくなり、地域で子どもを育てる教育力の欠如も見られます。

そのような中、東日本大震災で教えられたように、「もし何かあったら」という「生活問題」を支える力の必要性が現在問われるようになりました。そこでは、「公助」「自動」だけでなく「公助」の考え方が大変必要となります。そこでは「人と人をつなぐ新しいコミュニテイの創造」が求められます。それらの発展のためにも「レクレーション」が地域づくりに貢献する力が大きいと考えます。そし現代社会における期待も大きいといえます。

レクレーション支援であるアイスブレイキングについて

【アイスブレイキング】
アイスブレイキングの意義は、対象者の要綱な変化、変容に向けたレクレーション支援であり、そのために[無理なく][無駄なく][快く][楽しさ]といった前向きな感情や行動を共有し、集団の雰囲気を構築することが目的です。したがって、アイスブレークとは、壁を壊し、皆で共有して助け合うことです。基本的な考え方として。勝ち負けよりも皆で一体感や達成感を味わうことが求められます。誰かが失敗しても良いという、和やかな雰囲気が大切です。

アイスブレークのステップ



支援者対全体　　円では参加者全員へ目を配る　　小グループでの活動　　1対1の活動

（身体接触を伴う活動は段階を踏む。また対象者同士の関係も考慮する）

本日紹介頂いたアイスブレーク

（1）　隣りへの伝達　円状に並び、リズムよく順番に拍手をする。手を握るなど

（2）　何回握った？　2列になり、1対1で向かい合い、自分で決めた数を握手して相手と同数になるか、確かめ合う。交互でリズムをとれるかな？次に4人になり、2人ずつ組になってリズムをすらして「ぞうさん」の歌を手でたたく。

（3）　握手したのは誰？　縦の列になり、一人が目隠しをして鬼になり、鬼以外の人の中で一人代表を決めてまず、その人と鬼が握手をする。その後代表も含み、全員と握手をして、代表の人をあてる。

（4）　棒渡し　丸くなって両手で棒を持ち、合図に合わせて次の人に両方の棒を回していく。

（5）　タイル乗り　小さなタイル面の上にグループ全員で10秒間乗るためには、どうしたらよいかを考える。

（6）　人間知恵の輪　鬼を決め、他の人たちで手をつないだまま身体を知恵の輪のように、回したりくぐったりしてからませる。それを鬼に時間内に解いてもらう。

アイスブレイキングは道具が要らなく、互いに助け合い，共同作業の経験ができます。アイスブレイキングを通して子どもにどう合わせるか、高齢者にどう合わせるか、障がい者にどう合わせるかを学ぶことが出来ます。またネットなどで調べて、どうやったら対象者に合わせることが出来るかを調べてもできるでしょう。大切なことは、アイスブレイキングを通して対象者が様々に工夫し合って課題を達成できるようにすることです。そこでは一つのネタから生まれだしていくものを大切にすることです。筆者も実際に参加させて頂き、とても楽しく自然に他の人たちと協同することが出来ました。そして、地域にこのような人と人とをつなぐ輪があることの大切さを実感いたしました。

(文責　埼玉純真短期大学　持田京子)

講座３

障がいのある子の教育指導・支援

加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　　藤井真仁先生
埼玉純真短期大学准教授　　稲垣　馨先生

平成２８年１０月１５日（土）

埼玉純真短期大学研究セミナー「講座３」

加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　　藤井真仁

１　はじめに

２　生徒指導と特別支援教育

３　保護者との関わり、関係機関との連携

４　進学に向けて

５　おわりに

講座3 「障害のある子の教育指導・支援」

指導助言

加須市教育委員会学校教育指導部

主幹兼指導主事　藤井 真仁先生

事例提供

教員　小暮 恵子先生

障害者差別解消法　平成28年4月にスタート

「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めている

障害のある人もない人も共に暮らせる社会（共生社会）を目指す

今日の特別支援教育のキーワードのおさらい

基礎的環境整備

合理的配慮

合理的配慮

障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること

重すぎる負担があるときでも、障害のある人に、なぜ負担が重すぎるのか理由を説明し、別のやり方を提案することも含め、話し合い、理解を得るよう努めることが大切

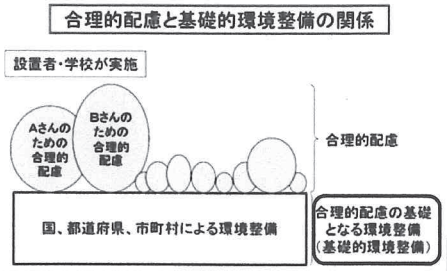
「合理的」とは、全て支援を受ける側の要望に沿うということではない

- **負担が重すぎない範囲**で、別の方法をさがすなどが考えられる。
- その内容は、障害特性やそれぞれの**場面・状況に応じて異なる**

↓

つまり、「**合意形成**」が重要である

まずは、基礎的環境整備から始めよう



合意の前提は**関係性の構築**

「合意」を得る時に必要なことは、相手と**良好な関係性の構築、維持**が鍵

⇩

特に重要なのが、**保護者との関係**

本人との関係構築の必要性は言うまでもない

支援の手順

1．実態の把握

♧校内と家庭での実態をつかむ　違いがあるのか

⇨**「違い」**がある場合、**環境整備が重要**

①行動面　・・・特に**集団行動**

②学習面　・・・特に**認知特性**

③対人関係面　・・・特に**友人関係**

実態の把握に用いる心理検査（WISC等）について

障害の有無や程度の目安となる重要なデータではある

「検査を何のためにとるのか」＝目的が重要

⇩

♧「判定」ではなく、**子どもの特性を捉える**ため

♧**適切な支援を考える**ため　　であるべき

心理検査で捉える子どもの特徴

♧結果が日常での本人の特徴や実体像と

どのくらい一致・ズレがあるかを見る

例）結果から見ると能力が高いのに、

勉強面で発揮されていないのはなぜ？

⇨**環境整備**が必要なのかも

2．具体的な支援　　特性を生かして

①**個**への支援

環境整備（座席など）、指示の出し方、言葉がけの工夫など

②**集団**（学級、学年、学校）への支援

学習環境（机上、机まわり、ロッカーなど）・教室環境（掲示物、生き物など）の整備、ルールやマナーの徹底など

保護者支援のポイント

保護者にとって「いい人」とは、保護者と子どもに対して、役立つ対応をしてくれる人

↓

一生懸命やっても、保護者が役立つと思わないと評価されないことがある

↓

「わかってくれている」という感覚を持ってもらうこと

保護者との関係作りのコツ　1

親の思いを受け止め、**否定したり変えようとしない**

障害があるのか否か、揺れているのかも

将来への不安や悲しみがあるのかも

原因を追究しているのかも

情報を入手し、治療や療育に邁進しているのかも

保護者との関係作りのコツ　2

親の助言を生かしつつ、**親に負担はかけない**

親が過剰に頑張ると、夫婦やきょうだい関係に軋轢が生じることも

保護者との関係作りのコツ　3

成功は子どもの力、失敗は大人の責任

教師と親が一緒に取り組んだ支援

うまくいくと・・・親をほめたくなるが、頑張ったのは子ども。子どもに声掛けを。

失敗すると・・・計画した大人の責任と表明し子どもがくじけないよう配慮。

専門家に相談する場合のポイント

＜校内の情報共有について＞

1．担任、管理職、支援学級の担任などの**情報を共有、視点の違いを整理**して伝える

2．現在の体制、学級経営、子どもへの支援について、**良い点を具体的に伝える**

3．2．とは逆の、**困っている点、よい成果が得られない点**を伝える

講座３
「記録」

障がいのある子の教育指導・支援

加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　　藤井真仁先生
埼玉純真短期大学准教授　　稲垣　馨先生

事例発表者：小暮恵子（加須市内小学校）

1、講座担当者紹介
2、稲垣准教授より講座の趣旨の説明があった。
3、事例検討
　1）事例紹介…架空の事例を扱う。
　　事例の概要の一端
　　中２男子、中２頃から休みが増え始め、月に平均して10日ほどの欠席がある。本人および家族の問題意識が薄い。授業中は、ぼんやりしたり、机に伏せたりしている。板書をノートに写すのに時間がかかり写そうとしない。疲れ寝不足でパニックや友達とのトラブルもある。
　2）事例についての質問が参加者から行われた。
　3）今回の事例検討のポイントについて、稲垣准教授から次の２点の説明があった。
　　①保護者との関係（環境調整の場合・進路の話の場合）
　　②学外の関連機関はどのようなことろがあるか､またどのような連携が考えられるか。
　4）方法：各グループの思考を模造紙にまとめるよう指示があった。（ポストイットを用い、メンバーからの意見をまとめた。）
　5）事例検討の経過
　　①自己紹介のあと、事例検討がなされた。
　　ポストイットを用い、メンバーからの意見をまとめるグループ。話し合いの中で大きな視点を捉え、模造紙に書き込むグループなど様々なまとめ方をしていた。
　　②話し合いの具体的な内容
　　１グループ
　　人間関係に着目し、家庭での人間関係を修復することにより心の安定が図れれば、少し状況も良くなる。特に本人と親との会話を重要と捉えた。また、支援学級への移籍も選択肢と考えられる。
　　２グループ
　　「安心」､「信頼」をポイントとした。また、その子の特性を捉えることを重要とした。実際の学校現場での経験を踏まえ、具体的な検討がなされた。
　　３グループ
　　安心できる「人」･「場所」を大切と捉え、特に学校における居場所があると良いとの話し合いが行われた。

4 グループ

「保護者と教員の信頼関係」を大切と捉えた。また、本人の現状をしっかりと把握することが初めにあるべきと考えた。また、本人の考えや気持ちをしっかりと捉えることも必要と考えた。

6）発表

1 グループ

本人の事を保護者が理解することが重要であると考える。また、問題として、担任の対象学生への理解が不足している点が挙げられた。担任と保護者が対象学生をともに理解し、連携し環境整備を行う必要があることが必要と考えた。担任の対象学生への理解を促すために、他教科（専科）の先生方からの情報や評価を担任に伝えることも有効と考えた。担任と保護者の関係がうまくいかない場合は、カウンセラーや他の先生と保護者の面談も一つの方法と考えた。また、別の側面では、友達関係の改善も有効であると考えた。

進路については家庭での会話を増やし、どのような進路を本人が希望しているのかを掴んでもらい、学校での進路指導に活かすことができるのではと考えた。

外部との連携では、相談室から教育センターなどの外部の機関につなげることも可能と考えられる。しかしながら、その際には保護者の理解と協力が必要である。

2 グループ

担任の理解と対応が問題。10 日の欠席があった時点でもっと違う対応の方法があったのではないか。同時に保護者が当該学生に関する関心が低いのも問題。学校内での課題として、友達関係、特に男子との関わりが少ないこと。学習面でも学力の低さから、学習に興味が持てなかったのではないかと考えられる。

小学校と中学校の接続の問題もあったのではないか。もう少し、連携がとれていれば、対応も違っていたのかもしれない。

専門機関への連携も有効と考える。

3 グループ

不登校を改善することを考える。本人が学校を安心できる場所と感じてもらえるように安心して過ごせる「場所」「人」「時間」を作る。場所としては保健室などもその一つとなる。また、学校全体で当該学生を診ることが有効。そのために、教職員が共通理解することや行内研修の実施も有効である。さらに、担任一人ではなく、支援員やボランティアなど多くの人との交流も有効と考えられる。

学校と保護者の信頼関係を構築した上で、保護者の当該学生に関する関心を高めるような手立てを設け、必要があれば他機関への相談等にもつなげることが有効と考えられる。

進路に関しては、本人の得意分野を見つけ、伸ばす方法もあると考えられる。

教員自身が関係機関からアドバイスを受けることも有効であると考えられる。

4 グループ

家庭が当該学生をどのように把握しているのかを確認し、学期ごとの面談や家庭訪問を行い、環境を調整することが有効。

進路については、当該学生の得意な分野、興味のあることを考える必要がある。また、いろいろな選択肢があることを提示することも必要と考えられる。短いスパンではなく、5年後、10年後において、どのような姿を期待しているのかを考えることも必要。また、今の不登校が将来の糧になる場合もあることを、事例などを通し保護者に知ってもらい、前向きな気持ちを持ってもらう。

関係機関との連携ではカウンセラーや小学校との連携などで貴重な情報が得られる可能性があると考えられる。

学校・家庭・本人の信頼関係を大事にして関わることが大切と考えられる。

4、講師指導

「障害のある子の教育指導・支援」　藤井　真仁　先生

事例検討について初めに感想と指導がなされた。

活発な検討が行われ有意義であったとの感想を述べられた。その後、生徒指導と特別支援教育の関係、保護者との関係、進路の考え方について指導があった。

その後、講義が行われた。

障害者差別解消法について、障害のある人もない人もともに暮らせる社会（共生社会）を目指すための不当な差別的扱いの禁止と合理的配慮の提供などについて説明があった。その後、「基礎的環境整備」「合理的配慮」に関する講義が行われた。

合理的配慮…障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること。重すぎる負担があるときでも、障害のある人に、なぜ負担が重過ぎるのか理由を説明し、別のやり方を提案することも含め、話し合い、理解を得るよう努めることが大切。また、ここでいうところの「合理的」とは、全て支援を受ける側の要望に沿うことではなく、「合意形成」の上で、できることを行うということ。

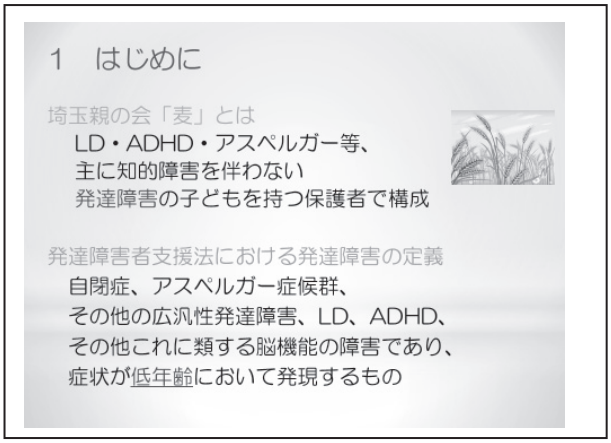
この後、支援の実際の手順についての講義が行われた。

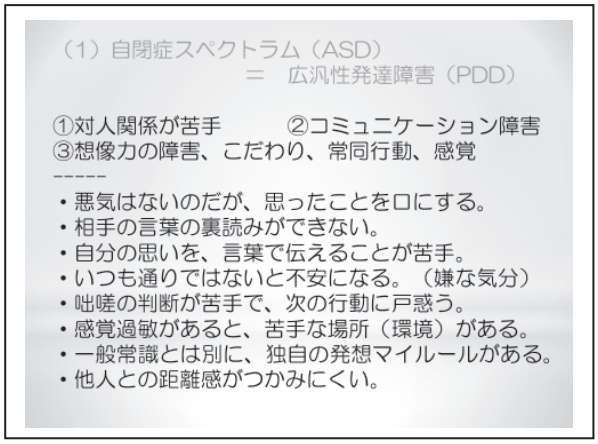
（文責　埼玉純真短期大学　牛込彰彦）

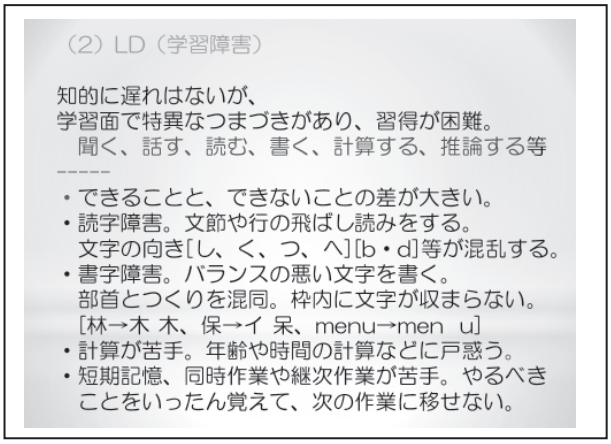
講座４

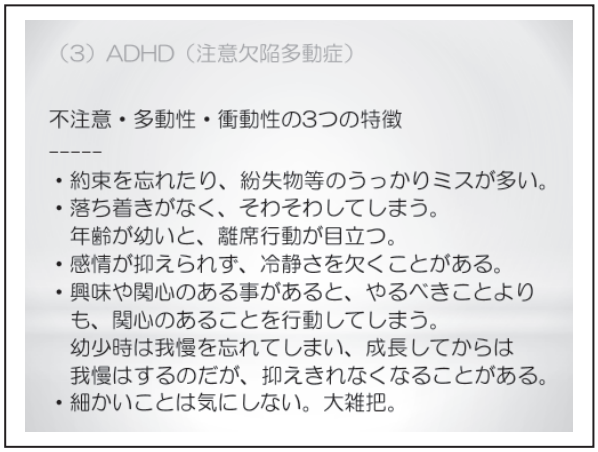
障がいのある子の子育てと支援

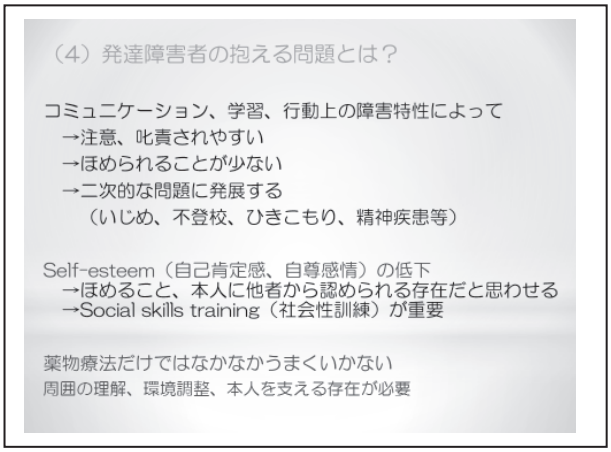
全国 LD 親の会　埼玉親の会「麦」代表　　矢崎弘美先生
埼玉純真短期大学教授　　伊藤道雄先生











（5）発達障害のある人の二次障害

不適切な対応により、本来抱えている困難さとは
別に生じる情緒や行動の問題

子どもの頃の傷ついた体験
内的な怒り、不安、葛藤　⇒　自己評価の低下
↓
①外在化：極端な反抗、暴力、家出、反社会的行為
②内在化：気分の落ち込み、強迫症状、対人恐怖、ひきこもり
↓
精神疾患の診断に当てはまるもの
①行為障害、反抗挑戦性障害など
②社会不安障害、強迫性障害、うつ病、など

2　保護者の子育てにおける悩み

各々で異なる本人の特性
- 生まれ持った本人特有の障害特性（症状）
- 生活環境により症状の出現には差がある
- 二次障害の出現にも差がある
- 育て方により困難は増強も軽減もする

特性と環境によって異なる対応
- 専門書（基本対策）通りに行かないこともある
- 生まれ持った特性、環境、本人や家族の考え方
  全て一致すれば、先輩の成功例を真似できる
  →大抵は一部を参考に取り入れるだけ

子どもの行動に戸惑う保護者
- 注意したのに、なぜ問題を起こすの？
- 私が同じ年頃の時は、こんなことはしなかった
  障害が原因と分かっていても、モヤモヤする

子育てに孤立感を深める保護者
- 友人に相談したら「ウチも同じ」と片付けられてしまう
  よその子と程度が違うのに、分かってもらえない
- 配偶者は仕事等に忙しく、子育ては消極的
  または、子育ての仕方を批判し、横から口出しする
- 配偶者の両親や親戚からのプレッシャー
  障害を理解してもらえず、頼りになる人がいない

保護者の抱える辛さ
- トラブルの度に周囲に謝罪を繰り返す
- 頑張っているのに分かってもらえない
- 親の力量不足だと、見られている気がする
- 周囲と子育ての話題が合わず、気まずく居心地が悪い
- 解決策が見えない　先の見通しが持てない

一見、普通に見える為、子育ての不安や辛さを口にしても、
親身になってもらえないばかりか、保護者の責任にされがち
さらに子ども本人と情緒的な相互関係を築けず、
疲弊が溜まり、保護者にサポートが必要（家族支援）

★育て方が原因で「発達障害」にはならない
早期に専門機関へ相談
家族会等の活用　思いを共感することで居場所ができる

3　我が子の特性理解と障害受容

なぜ毎日一緒にいる親が気付かないの？
我が子の問題を見逃す理由
①アンバランスな発育の特徴
できない事もあるけれど、できる事もある
②環境の影響
良質な環境　良い人に恵まれ何とかなってしまう
悪質な環境　周りが悪いと本質が隠れてしまう
③家庭や家族側の事情
多忙・経験不足・類似する家族性
④その他（放任、無関心）

気付けなかったことを責めない

障害受容までの道のり

三障害と異なる特徴的な心理	
前段階	・自己安心型 できる部分も多い為、個性の範疇と思っている ・不安模索型 不安の解決策を探しているが、見つからない
発達障害が判明（今までの問題を障害として認識）	
第一段階	混乱する感情（ショックと安堵）
第二段階	落ち込む感情（ネガティブ思考と消極性）
第三段階	湧き上がる感情（ポジティブ思考と積極性）
第四段階	穏やかな感情（ありのままで、周囲との協調）

4　周囲との連携

周囲への説明（私の失敗）

*専門的な説明で理解を求めた → 分かりにくい？
*知っていて当然 → 伝わっていなかった
*漠然とした要望　観念的な意見
→具体的に何をして欲しいのか？曖昧な主訴
*専門家の推奨する指導法を待望する
→実現困難の時は不満しか残らない
*理路整然と理想論を述べた
→理想と現実、相手を追い詰めてしまう

周囲への説明（私の工夫）

*身近な具体例で説明する
*伝えるべき内容を文書化する
*要望事項を整理する（長期的・短期的）（個人・組織）
→翌日から工夫できること/学期単位/年単位
*指導方法や改善策を複数用意する　代替案の提示
→推奨指導方法に固執しない
*相互の意見調整
→立場の理解、追求しすぎない、同調共感する
*ピグマリオン効果　指導者に期待の視線を向ける
*良い話題を取り入れる
*自分と相手の得手不得手を知る

周囲の変化（工夫によって）

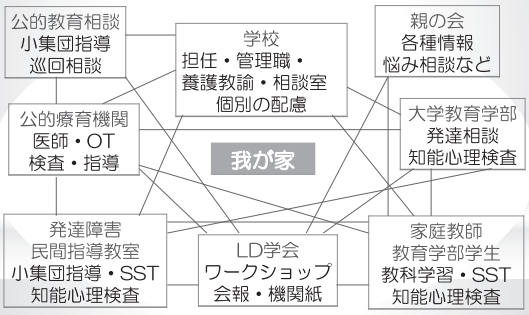
*身近な例での説明→共感してもらえる
*文書化→連絡ミスの防止、支援の見直しができる
*要望事項の整理→どんな支援をすべきか分かる
*代替案の提示→何らかの支援は受けられる
双方にストレスが生じにくくなる
*同調共感する→仲間意識が育つ、良好な連携
*ピグマリオン効果→想定以上の支援を受けられる
*良い話題の提供→話し合いの嫌悪感が薄れる
*得手不得手を知る→互いに無理をしなくなる

家族などへの説明（私の工夫）

*配偶者に対して
一番の協力者、時間をかけて共通理解を
*本人のきょうだいに対して
幼児期から障害を告知する準備
個性を尊重する子育て教育→個性≠障害…類似性
*義両親に対して（舅姑）
時間をかけて適度に理解してもらえるように
*親戚に対して
頻繁に会う機会がなければ、その場限りの対応
*その他、近所・習い事先など
関わり方の頻度によって

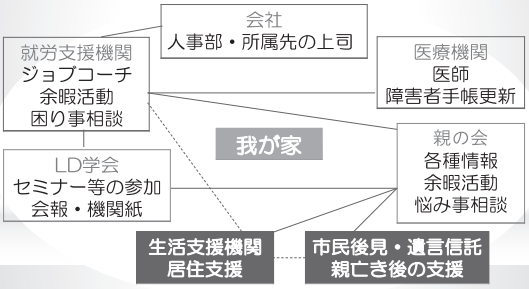
周りにどのように働きかけたか

*我が家の連携　学齢期



周りにどのように働きかけたか

*我が家の成人期（就労に際して）



補足：周囲の説明（年代に応じて）

*児童期（高校生まで）
思春期頃から本人の意思を確認
障害告知後は、本人の気持ちに配慮する

*成人期
本人の意思を尊重
本人の力で周囲に説明していけるように
保護者は徐々にサポート役へ（補足説明）
いつかは自立していかなければならない
→支援機関や支援ツールを活用

補足：周囲の説明（ツールの活用）

*周囲に理解や支援を求めるためのツール

埼玉県発行「サポート手帳」

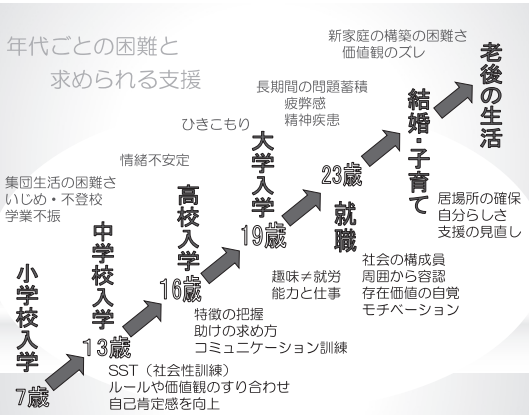
さいたま市発行「潤いファイル」

*医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関において、
支援内容等の情報が共有できる
*親の思いすごしや身勝手な意見と思われない
*当事者が管理保管する（本人＆保護者）

5　発達障害のある子と上手に付き合うコツ

・他者と比較しない
同年代の人や似たような境遇の人と比べない
・自己肯定感（self-esteem）を向上させる
本人の良さを認める　　普通にできることをほめる事
・具体的な説明や指示
曖昧な言葉（しっかり、ちゃんと）は使わない
言葉でわかりにくければ見本を示す（視覚表示）
禁止や命令ではなく、してほしい内容を伝える
・支援ツールの活用
パソコン、アプリ、ICレコーダー、DAISY（音声ソフト）等
・環境の調整
集中作業できる環境（聴覚や視覚等の刺激を少なくする）
リラックスできる場の提供

年代ごとの困難と求められる支援



発達障害のある子の子育てとは

＊今、抱えている「社会生活上の困難」だけではなく
「将来目標」のために何ができるかが基本
＊「今できないこと」に焦らない
→時間が経てば、できるようになることもある
＊社会で生きていけるように育てる
→そのためには何が必要か
＊家族だけではなく、周囲との連携が重要
環境調整の対策が立てられない（時間と手間がかかる）
＊自分を卑下しない、self-esteemの高い子に育てる
→ほめたつもりでも、本人に伝わらなければダメ
★ほめる技術と実績が子どもを成長させる★

ほめ方のポイント self-esteemを高める

発想の転換（プラス的な考え方、見方を変える）
*落ち着きがない→何かを考えている、よく気がつく
*協調性に欠ける→自己主張ができる、周囲に流されない
*多動→決断力があり即行動に移せる、腰が軽い
*しつこい→記憶力が良い、昔のことを憶えている
*こだわりが強い→好みが分かりやすい、初志貫徹
*場の空気が読めない→直接的に伝えられる
*衝動的→エネルギッシュ、感情表現が豊か

年齢が上がるごとに、単純なほめ言葉では通用しなくなる
「ありがとう」の感謝の言葉で伝える
★普段から棘のある言葉ではなく、優しい言い回しを

補足：家族会の活用

親の会・家族会の良さ
家族にしか分らない気持ちの理解者
家族同士ならではの情報提供
偏った価値観の防止（正しい理解を促す）
★　経験者のアドバイスには耳を傾けやすい

親の会・家族会の落とし穴
入会すれば何かしてもらえる？
自ら行動しなければ、得るものはない
情報や行事は提供するが、それを活かすのは個人
仲間意識に流されやすい
★　「井の中の蛙」ではなく、多角的に判断する

6　まとめ

＊柔軟に物事を考えること
子どもの特性が異なるように、全て状況次第
＊生真面目に頑張り過ぎない（鬱的症状の回避）
相手に気持ちが100%伝わらなくて当たり前
→少しずつ協力者を増やして孤立しないように

子どもへの支援が最優先だが、
保護者や支援者が疲弊して倒れないように
みなさんとお子さんが笑顔で過ごすことが大切

ご清聴、ありがとうございました

28年度第6回研究セミナー第4講座

自尊感情とレジリエンス

～子育てのキーワード～

平成28年10月15日（土）

埼玉純真短期大学教授　**伊藤道雄**

セルフ・エスティーム（自尊感情・自己有用感）

不完全な自分を好きになる

できないことがあってもいいんだ 他にこんないいところがあるんだ

苦手は助けられ、得意分野で貢献する

得意　苦手　得意　苦手　得意

自己決定の力の育成（セルフ・ディターミネーション）

あなたならどうする

お勧めしないコース

お勧めコース

泣く 逃げる やらない めちゃくちゃにする 物にあたる ごまかす わからない

困った わからない むずかしい 思い通りにいかない

手伝って下さい 分からないので教えて 聞き逃したのでもう一度助けてください

レジリエンスを育てる

○レジリエンスとは、回復する力、「しなやかさ」折り合う力です ⇒ 「まあ、いいか！」

- ソーシャルスキルは、他人と折り合う力です
- レジリエンスは、自分と折り合う力です

低い　困難 ⇒ 否定 ⇒ さける

高い　困難 ⇒ 向き合う ⇒ 適応する

レジリエンスの3要素

感情の調整

新奇性の追求

肯定的な未来指向

（1）生活習慣が心の形をつくる

○適度の枠組みの中で、自己肯定感を育てる

学校・園生活のルール

家庭生活のルール

地域生活のルール

○やがて、枠組みがなくても活動できる

予定表で時間を意識

- ○時間はなかなか見えない

予定表をながめる

⇩

慣れたら自分で考える

自分でつくる

早寝早起きを習慣に

疲れに気づきにくい

睡眠リズムが乱れる

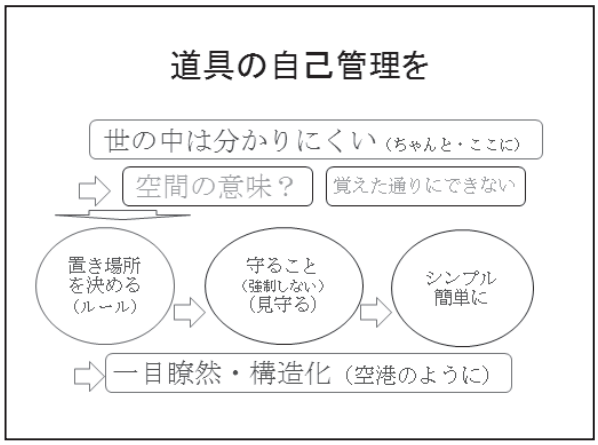
⇩

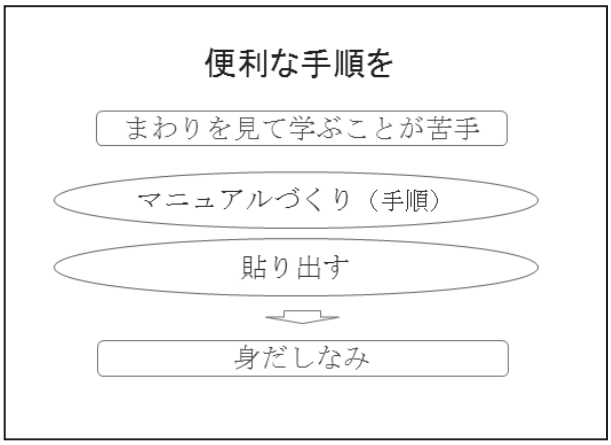
就寝前の行動パターンを決める

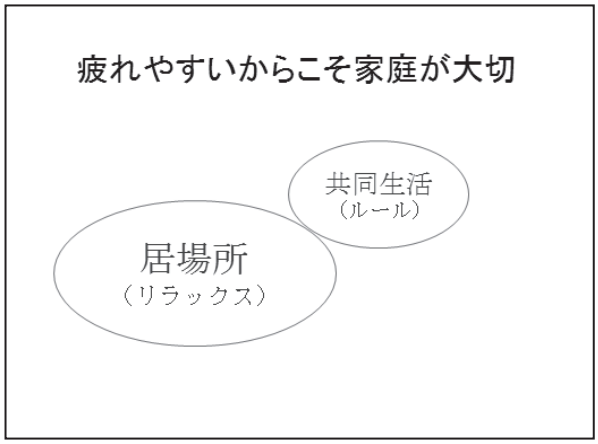
保護者の生活習慣を見直す

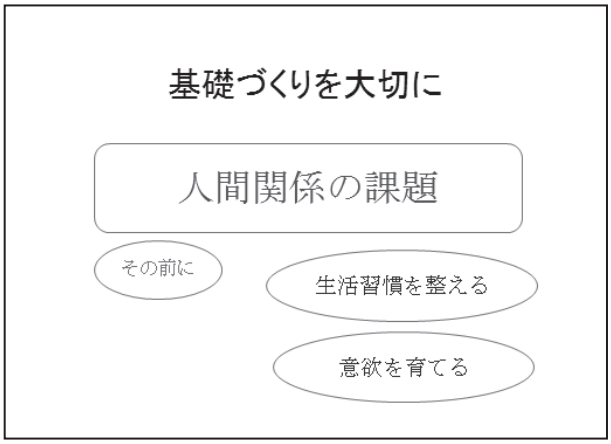
行動パターンを決める

好きなことを組み込む


道具の自己管理を
世の中は分かりにくい（ちゃんと・ここに）
空間の意味？
覚えた通りにできない
置き場所を決める（ルール）
守ること（強制しない）（見守る）
シンプル簡単に
一目瞭然・構造化（空港のように）


便利な手順を
まわりを見て学ぶことが苦手
マニュアルづくり（手順）
貼り出す
身だしなみ


疲れやすいからこそ家庭が大切
共同生活（ルール）
居場所（リラックス）


基礎づくりを大切に
人間関係の課題
その前に
生活習慣を整える
意欲を育てる

講座４
「記録」

障がいのある子の子育てと支援

全国 LD 親の会　埼玉親の会「麦」代表　　矢崎弘美先生
埼玉純真短期大学教授　　伊藤道雄先生

本講座は、今年より新設された講座である。設置目的は、今年の全体のテーマ「発達障がいのある子の教育・子育てに学ぶ」に表されているように、障がいのある子どもの子育てには「保護者との連携」が欠かせない重要な課題であることを理解することにある。

◎参加者数：19 名（内訳：保育園長、小・中・高校教員、小学校ＰＴＡ、障害児（者）施設長・職員、相談員、学童保育室職員、学生等）
◎連絡員・進行・会場係：2 年小川あや　　司会・記録係：特任准教授 丸山アヤ子
◎授業者：全国ＬＤ親の会　埼玉親の会「麦」代表 矢崎弘美
〃　　埼玉純真短期大学教授 伊藤道雄

Ⅰ．授業「障がいのある子の子育てと支援」全国ＬＤ親の会　埼玉親の会「麦」代表 矢崎博美　先生

１．はじめに

自己紹介：矢崎先生は、埼玉親の会「麦」代表で活動されている。その活動内容を紹介し、お子さんが発達障がいだったため、子育てに大変苦労された経験を中心に、以下のように話された。

２．授業内容要約

限られた時間内で分かり易く、様々なケースを引用しながら深い内容の授業であった。

(1) 発達障がいの定義；発達障害者支援法引用による定義
(2) 発達障がいを持つ人の２次障害へのプロセスと種類
・自己評価低下による**外在化**：極端な犯行・暴力・家出・反社会的行為⇒**行為障害・反抗挑戦性障害**
・　〃　　**内在化**：気分落込・脅迫症状・対人恐怖・ひきこもり⇒**社会不安障害・強迫性障害・うつ病**
(3) 障がい特性による問題を起こさない対応策
①一人一人の障がい特性は多種多様である⇒それぞれの特性に合った関わりが大事である。
②発達障がい児が抱える問題解決方法：「**自己肯定感**」を育てること。
⇒「**褒める**」機会を多くし、「自分が他者から認められる存在であること」を伝えることが有効である。
(4) 保護者の抱える辛さと障がい受容
①自分の子どもの問題行動に戸惑い孤立⇒トラブルの度に謝罪⇒「育て方」の問題ではない！
解決策⇒自分を責めない⇒早期に専門機関へ相談⇒「家族会」の活用（思いを共感する居場所づくり）
②障がい受容まで：混乱期⇒落ち込む時期（ネガテイヴ）⇒ポジティヴ・積極性⇒ありのままの受容
③周囲との連携：周囲への説明は具体的に口頭・文章化⇒学校・専門機関・親の会の活用⇒孤立ダメ
(5) 発達障がいのある子と上手に付き合うコツ
①**他者と比較しない**：同年代の子、似たような子と較べない。
②**自己肯定感の向上**を図る：「本人の良さを認める」「普通にできたことを褒める」等。
③言葉の掛け方：**具体的**な説明や指示
⇒「片付けてね」行動を示す。「しっかり・ちゃんと」は伝わらない。

④褒め方のポイント：「ありがとう！」と褒めると価値がある存在と自覚できる。
⇒「感謝される存在である」と伝える。
⇒×「えらいね」では伝わらない。
(6)褒め方のポイント(例)
・「落ち着きがない⇒**よく気付く**」
・「協調性に欠ける⇒**自己主張ができる、周囲に流されない**」
・「多動⇒**決断力があり行動的**」
・「衝動的⇒**エネルギッシュ、感情表現が豊か**」
(7)保護者の悩み
同じ障がいをもつ子どもの保護者は、日々、子どもと生活する中でどのような方法で関わったら良いのか、試行錯誤している。成功例、失敗例いろいろあるが、自分の子どもの障がいを受け入れ、親としてできる限りのことをすることが大切であると強調された。矢崎先生も同様な悩みを持っていたこと、心に響いた。

Ⅱ．授業「自尊感情とレジリエンス」～子育てのキーワード～　　埼玉純真短期大学教授　伊藤道雄

１．はじめに
自己紹介：伊藤先生のお子さんも発達障がいがあった。中学校では特別支援学級に在籍し、通信制高校卒業後、ホテルマン(ゴミ担当)として自立し、一人暮らしを始めた。仕事と生活の両面の自立に励んでいる。「北海道に一人旅に行く」ことを励みに生活している。今思うに、親だけで子育てはできない。一人旅を通して「他の人に頼って生きていくことの大事さを学べた」ことが自立への第一歩となったとの話があった。障がいの有無ではない。人間としてどう生きていくかが大切である。

２．授業内容要約
「できることを沢山積むことが大事」：成功例の経験⇒努力の源となる。
(1)「セルフ・エスティーム」を育む：「自尊感情」「自己有用感」をもつ。
⇒不完全な自分を好きになる：「できないことがあっていいんだ」「他にいいところがあるんだ」
⇒自己決定の力の育成(セルフ・ディターミネーション)。
⇒［不完全だけど出来るんだ］の気持ちを育む！
(2)「レジリエンス」とは教育心理学等で使われることが多い。
⇒語句の意味：「回復する力」「しなやかさ」「折り合う力」である。⇒「まあいいか」が大事。
⇒ソーシャルスキルは「他人と折り合う力」、レジリエンスは「自分と折り合う力」である。
(3)社会性を育てる３要素
①自尊心(自分を信じる力)
②レジリエンス(自分と周りを信じる力)
③ソーシャルスキル(周囲の人と関わる技術)
(4)４つの段階：障がいの有無にかかわらず、どの子も「早寝早起き」の生活習慣を整えることが基本！
①生活習慣を整える
⇒②人を頼り成功
⇒③興味を生かし自信を持つ
⇒④サポートを受け気持ちを切替える

Ⅲ. グループ討議：2つの研究の柱に分けて討論

<table>
<tr><th colspan="2">1. 障がいをもつ子どもへの子育て支援について</th><th>2. 障がいをもつ子どもの保護者対応について</th><th>3. その他</th></tr>
<tr><td colspan="2">質問①…多動の子：はっきりした障がいと診断されないため担任一人。冷静さを保てず対応してしまう。関わり方は？
⇒本人が一番困っている。ﾊｰﾄﾞﾙを低くし褒めて自信を持つと問題行動が軽減される。
〃②…障がいを持つ子はｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが難しい。関わり方は?
〃③…本人のやる気、興味を引き出すには?
疑問…こだわりが強くなっている。なぜか？
⇒こだわりは、周りのいろいろな状況によって変化する。本人が嫌な事を可能な限り取除くと良い。
悩んでいる事①…子どもに寄り添うことができない。
⇒成功例：学校全体で子どもの特徴を理解。何度も話し合いを持っている。
〃 ②…ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰの子は自尊心が低く自分の良いところが見つからない。友達もできない（保護者）。
〃 ③…困り感のある小４の息子が周囲から強く言われる事が嫌だと孤立したがる。
〃 …④公立小学校の通常学級へ積極的受け入れ有。
⇒支援相談体制は?
〃 ③…特別支援学校卒業後の進路について
⇒本人・保護者と十分話し合うことが大切。</td><td>悩んでいる事
…自分の子どもの障がい（遅れ）を理解していない。
…「自分は普通だ」と保護者の前で断言、保護者も納得。
…保護者に保育園での現状を伝えるが納得してくれない。
…担任の先生からの連絡帳には、成功例ばかり書いてあったので問題行動に気付けなかった。
…保護者へ高等部卒業後の進路をどう伝えたらよいのか。
…障がいを持つ孫がショック症状を起こした時、嫁の対応がまだまだである。
⇒今後、いろいろな知識・情報を得ることが大切。</td><td>悩んでいる事
…保護者が生活リズムを整えられない。
…支援者に求められることは何か？
…5歳の孫の小学校入学が心配。</td></tr>
<tr><td>成功例</td><td>・交換日記：相互理解に繋がった。
・専門機関との連携：OTでのﾘﾊﾋﾞﾘ内容を学校で活かす。
・地域で子どもを受け入れてもらい、社会体験を広げ、様々な刺激を受ける事が大事。
・専門的な子どもに合わせた支援が必要。</td><td>保護者への伝え方
…支援開始、早ければ早いほど良い事を伝える。
…診断されず、ｸﾞﾚｰの子どもの親のつらさがある。早期発見・早期支援が必要。
…否定せず保護者の気持に寄添い、信頼関係構築。
…口頭のみでなく、板書・プリント等で連絡。
…1日の行動を詳細に伝える。
…保育士は保護者へ子どもとの関わり方（遊び方・話し方）を見本として示す。
他機関との連携
…ＳＴの先生に保護者へ伝えて頂き、医療へ繋げる。
…助言できる範囲で回答し、専門機関を紹介。</td><td>他の子ども
…同クラスの子どもの協力。
地域との連携
…保護者（親の会）を創設し地域・行政（遠足等）と交流。
今後の課題
…兄弟3人それぞれの世界を大切に！</td></tr>
</table>

（文責　埼玉純真短期大学　丸山アヤ子）

あたたかいクラスづくりのサポーター
～ボランティアとして学級に入る～

さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティアコーディネーター
浅川光行先生ほか

活動のきっかけから立上げ、また活動のねらいや決まりまでと最後のまとめを浅川が、実際の活動の紹介を松本が、活動の成果や今後への展望等を戸井田が発表します。

○植竹小学校について

さいたま市の北部、旧大宮市にある今年で 65 周年になる児童数 810 名、教職員数約 60 名の比較的大規模な小学校です。普通学級が 24 クラス、特別支援学級が 3 クラスあり、子どもたちは入学時から特別支援学級の子どもたちとの交流があり、温かい目が育まれています。PTA の会員数が 698 名で 6 つの専門部と 1 つの委員会を設け、その年に役員にならない PTA 会員は協力員として年に 1～2 回、各部の活動や学校の手伝いをします。平成 19 年度から PTA の年間テーマを『あったかいクラス作りのサポーター』として掲げ、会員すべてで子どもたちを支える体制に努めています。

○サポーターの位置づけ

植竹小学校には役員、協力員とは別に 5 つのボランティアがあり、平成 19 年度より学習支援ボランティアが加わりました。この活動のきっかけは、私がＰＴＡ会長になった平成 15 年 12 月にさいたま市内の小中学校の校長先生と PTA 会長を集めて行われた教育委員会主催の講演会で、LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒が 40 人学級に 2～3 名おり、今後の教育現場において特別支援教育への PTA の理解と協力が必要不可欠になるという内容が記憶に残りました。

○学習支援ボランティアの立ち上げのきっかけ

本当の意味での学習支援ボランティアの立ち上げのきっかけは、平成 15･16 年の植竹小学校の通常学級で授業中にキレる子、教室外に出て行ってしまう子などがいるために落ち着いた授業ができないという事態が起きていたことでした。まだ特別支援教育というもの自体が理解されていなかったために残念ながらクラス単位のトラブルに発展してしまうこともありました。私のところにもクラスの役員さんから相談があり、学校や保護者の話し合いにも加わるようになり、皆で発達障害について学びました。教育委員会の講演会も、こうしたことへの学校の取り組みへの協力依頼だと理解し、我々PTA も理解・協力していくものだと考えました。発達障害について勉強していく中で、「親の育て方や本人のわがままま、努力不足によるものではなく脳神経学的な障害である」ことを知り、「決して他人事ではない。我が子もそのような特性を持って生まれてくる可能性もあったのだから、自分の

問題として考えよう」という意識が芽生えました。学校と話し合いをする中で、当時の特別支援コーディネーターの先生から、PTA で組織的なボランティアを起ち上げたらとアドバイスを受け、3～4 名のメンバーと 2 年以上をかけて山田校長先生をはじめとする学校側と話し合いました。並行して保護者へも PTA 総会や役員会の場で繰り返し理解と協力を求め、ついに平成 19 年 10 月から要請のあったクラスへの支援が始まり、現在では 42 名のメンバーでほぼ毎日活動しています。

○学習支援ボランティア立ち上げにあたって学校側と決めたこと

名称ですが、皆の理解を得やすいように『学習支援ボランティア』としました。「子どもたちが楽しく学習できる環境づくり」をお手伝いするボランティアです。

活動のねらいは、「1. 子どもたちが落ち着いて授業を受けられ、先生が安心して授業を行える」「2. 支援を必要とする児童に関わる全ての人が、障害への理解、児童への理解、指導方法への理解、支援活動への理解を深めるとともに当該児童の保護者の力となり、皆で一体となって温かく見守り、育てていく環境を作る」の 2 点としました。

活動の条件として、お子さん本人または保護者から要請があった場合、かつ担任の先生からの要請があった場合に支援に入ります。これは原則で、実際にはお子さん本人からの要請はありませんし、学校と話し合いながら要望にあわせて支援に入っています。

決まりとしては、「1. クラス全体をみるという視点を忘れずに支援を行う」(依頼は個人であっても、その子を見守りながらクラス全体をみています)、そして特に重要なのが「2. クラスに入って活動したときに見聞きしたことの守秘義務の徹底」「3. 担任の先生や学校の指導方法、子どもたちの言動等の批判をしない」です。

○実際の活動内容や成果

・定例会議

私たち学習支援ボランティアは、毎月 1 回その月の後半で特別支援教育コーディネーターの先生が参加できる時間を利用して、定例会議を行っています。参加者は学校側から校長先生、教頭先生、特別支援教育コーディネーターの先生 2 名、この日に参加可能な学習支援ボランティアのメンバーです。会議までにコーディネーターの先生から担任の先生方に翌月の支援日時を募り、スケジュール表にまとめてもらいます。また学習支援ボランティアは会議に欠席の場合、翌月で活動可能な日時をボランティア側のコーディネーターへ連絡しておきます。会議の日はまず、今現在、支援している中で気付いたこと、先生方やメンバーに伝えておきたいこと、支援をする上で学校側に聞いておきたいことなどを話し合います。これは学習支援ボランティアだけの会議なので、クラスの現状や特別に支援が必要な子に関しても具体的に話せる時間です。その後、翌月の支援依頼事項について、コーディネーターの先生から説明をしてもらい、先生方が退席した後にスケジュール表に添って担当者を決めていきます。決まらない枠は、ボランティアコーディネーターが欠席者より募ります。そして、完成したスケジュール表を学校側とメンバーに配布します。急な変更等は全て教頭先生とボランティアコーディネーターが窓口になります。

活動開始当初は毎月１回の会議だけでしたが、支援内容が多様化してきたため、その頃に校長でおられた伊藤道雄先生や、特別支援教育コーディネーターの山口孝一先生にお願いし、会議後に勉強会を開いていただきました。

さらに、支援を必要とするクラスや困っている子どもたちの力になれるよう、担任の先生方と直接話ができないかと学校に相談し、8 月の終わりと春休み中の定例会議に担任の先生方とも話ができる時間を作ることになりました。担任の先生方と直接話せることは大きな収穫です。

・実際の支援

いろいろな支援がありますが、中でも需要の多いものを紹介します。守秘義務を徹底させるため、支援では原則として自分の子どもの学年には入らないようにしています。

①朝パトロール等の学年支援

月曜日と木曜日の朝自習の時間（8:15～8:40)、担任の先生方が職員集会のため教室が児童だけになる時間の見守りです。この支援を「朝パトロール」と呼んでいます。今年度は１年生全クラスに２人､2～4 年生と特別支援学級にそれぞれ１人ずつです｡基本、廊下にいて全クラスの間を行き来しながら見て回り、困っている子どもがいたら教室に入って対応します。１日の始まりは何かと落ち着かず、特に１年生は担任の先生がいらっしゃらなくて不安になりがちです。大人が近くにいることで、安心して先生を待っていられるようにするのが私たちの役割です。状況によって人数は変わります。職員集会が終り担任の先生が戻って来られたら、支援中の様子を伝え、全クラスの先生が戻り次第終了です。また、業間休みや昼休み、掃除時間だけの支援もあります。

②クラス支援

学年クラスを問わず、授業に入る支援もあります。これは保護者と担任の先生からの依頼を受けての支援です。支援時は授業の少し前にクラスに行き、担任の先生から支援のポイントを簡単に聞いてから入ります。クラス全体を見るのが基本ですが、先生から気になる子についての指示があればクラスを廻りながらもその子に気を配るよう心掛けます。興奮状態でクラスにいられない場合は、空いた教室などに移動し、マンツーマンで話し相手になったりもします。内容によっては担任の先生がその子の対応にあたり、学習支援ボランティアがクラスの子どもたちを見守るなど状況に合わせた支援を行っています。

③補助支援

困り感への支援の他に、補助的な支援もしています。例えば、体育のプールや書初め、家庭科のミシンの授業等、補助を必要とする授業にも入ります。2 年生の芋ほりや 3 年生のまち探検、5 年生の盆栽園見学等の校外活動の手伝いも行っています。人数は状況に応じて様々です。

・申し送り、報告書

同じクラスの支援が続くと複数のメンバーが入ることになります。担任の先生からの指示はありますが、メンバー同士が情報を共有し、同じ気持ちで支援するために申し送りは大事です。守秘義務という点からノートは職員室に置き、必要に応じて申し送り事項を記入することにしました。加えて、支援後すぐに私たちの声を届ける手段として、

コーディネーターの先生の力を借りて報告書も作成していただきました。

・講演会・勉強会（全保護者へ理解を得るために）

新年度に着任された先生方や新入生の保護者の皆様に活動について正しく知ってもらうために、新入学時説明会で学習支援ボランティアについてのプリントを配布し、PTA総会時にも代表から学習支援ボランティアについて説明しています。また、新着任の先生方には、コーディネーターの先生が作ってくださった先生バージョンのプリントを配布していただいています。また、年に1回スキルアップのための講演会を計画しますが、この機会に私たちの思いを伝えるべく全PTA会員にも案内を出しています。内容によっては、近隣の小中学校や地域でお世話になっている方へもお誘いのお手紙を出すこともあります。こつこつと積み重ねていくごとに、教職員や保護者の皆様にも学習支援ボランティアに対する理解を深めていただけているように感じます。他にも学習支援ボランティアだけの勉強会を開いたり、外部で行われる講習会やセミナーに参加し、自分たちの資質向上に努めています。

○活動から見えてきたこと、これからも大切にしていきたいこと

今回の発表にあたり、現在植竹小学校に勤務されている先生方や以前植竹小学校に勤務されていて学習支援ボランティアと関わりがあった先生方にアンケートにご協力いただきました。また、学習支援ボランティア内でもアンケートを実施しました。2009年にも同様のアンケートを実施しており、その結果との比較も交えながら活動から見えてきたこと、学習支援ボランティアがこれからも大切にしていきたいことについてお話しします。

＜先生方のアンケートから＞

【学習支援ボランティアの存在とは？】

前回のアンケート同様に感謝の言葉をたくさんお寄せいただきました。具体的には、「目の行き届かない子や個別に見てあげたいのに集団を優先してしまう時に集団から置いて行かれてしまう子を救ってもらう存在」という声や逆に「個別指導が必要な子がいる場合、教室全体を見守ってくれて心強い」といった回答をいただきました。また、「急を要する対応が迅速にでき、ありがたく感じている」といった声もありました。学習支援ボランティアが教室内でお手伝いをすることで担任の先生や子どもたちに良い状態で授業を進めていただけているのではないでしょうか。

【学習支援ボランティアが支援に入っての感想は？】

学習支援ボランティアが実際に教室に入った感想には、「スムーズに学習が進められる」「個別に声掛けが必要な子に教師が目を向けやすくなる」「落ち着いて学習できるようになってきた」という回答をいただきました。子どもたちがスムーズに授業が受けられるように、学習支援ボランティアが指示の伝わっていない子ども一人ひとりに声をかけたり質問に答えたりすることによりスムーズな学習が進められると感じていただけているようです。授業だけでなく支援の間の休み時間に連絡帳を書くことや体育着への着替えなどを促す支援も、結果的に学校生活でのスムーズな時間の流れを作るお手伝いになっているようです。子どもたちが落ち着いた状態で学習できるようになってきたのは、特別支援教育の“一人

ひとりの子どもたちにあった支援を行う”という考え方に沿った支援を実践できている結果だと受け止めています。「子どもたちも嬉しそうな顔をしているので、子どもたちにとって身近な存在なのだろう」という感想もあり、やりがいと喜びを感じました。また、「子どもたちへの対応を今一度考える機会になった」「我々教員の指導にも、良い意味でブレーキをかけられると思う」と言った感想もあり、教室に保護者が入るという難しい状況を受け入れてくださる先生方に温かいものを感じました。先生方と学習支援ボランティアの間に築いてきた信頼関係があるからこその感想だと受け止めています。一方で、「学習支援ボランティアに甘えてしまい、学習意欲の下がる可能性のある児童がいる場合には支援を依頼しない」という回答もあり、子どもたち一人ひとりをしっかりと見て必要に応じて支援を依頼する先生の姿を垣間見ることもできました。

【「特別支援教育への手伝い」という観点では？】

「特別支援が必要な子だけに寄り添うのではなく、担任がその子に個別支援をしている時には全体を見守っていただける」という回答がありました。これはクラス全体を見守るという学習支援ボランティアの基本姿勢に基づくものであり、私たちボランティアの中にこのような理念が浸透し活動できていることへの評価だと受け止めました。困り感を抱えた子や複数の目で見ていく必要がある子にとっては、大人が近くにいることが安心感につながり、落ち着いた状態をつくる手伝いができているのだと思います。

＜学習支援ボランティアのアンケートから＞

学習支援ボランティアの最大の特徴は、学校側だけの取り組みではなく PTA の取り組みだという点です。その結果、PTA 組織内に窓口を設けたことで「障害をもつ児童の保護者が孤立しなくなった」「保護者間の相互理解が深まった」「保護者全体が『特別支援教育』について考えるきっかけになった」といったメリットが生まれました。障害をもつ児童の保護者からは「子どもの成長をボランティアの方も見守ってくれているのは本当に心強い」「付き添いを交代していただいた日には子どもに優しい気持ちになれる」などの感想が寄せられました。学習支援ボランティアがお手伝いすることで悩みや喜びを多少なりとも共有でき、保護者に心のゆとりが生まれ、子どもにも良い環境を作ってあげられているようです。私たちが活動している姿を目にしたり、学習支援ボランティア主催の講演会などに参加したり、保護者という同じ立場の PTA 組織が関わっている様子を知ることで“他人事ではない”という問題意識が多くの保護者の中に芽生え、自分たちの問題としてお互いを理解し「特別支援教育」について考えるきっかけになっていると思います。実際に支援に入ったボランティアからは、「一人の先生が 40 人を受け持つことの大変さ難しさがわかった」「先生の大変さがわかり、先生に感謝しながら学習支援ボランティアとしてできることをお手伝いしたいと思った」など先生の大変さに共感する感想や「時が経ち以前支援に入ったクラスの子どもたちの成長を感じると嬉しくなる」「発達障害について勉強できる」「できるまで待つことの大切さがわかった」などの感想が寄せられました。中には「『なんだこのおばさん』だったのが『知っているおばさん』になり『〇〇さん（名前）』になっていく過程にやりがいを感じる」といった感想もあり、子どもたちとの距離が近くなっていくことを表している素敵な感想だと思いました。

○課題と対応

前回も今回もアンケートの中で先生方が挙げられたのが個人情報の問題です。「情報が出てしまうのでは」「守秘義務が徹底されているのか心配」といった声が寄せられました。守秘義務については、毎月の打ち合わせや勉強会などで常に確認し、学習支援ボランティアに登録している全員が必ず守らなければならない最も大事なこととして徹底しています。また、学習支援ボランティアに初めて入る方は守秘義務などの誓約事項が記載された学校長宛ての申込書を提出していただき、学校長の面接を受けてからボランティアに登録します。すでに登録しているボランティアも必要に応じて学校長面接を実施し、ボランティアの資質を保てるように努力しています。このような体制を先生方にも伝え理解していただくことで、お互いに信頼関係を築いていくことが大事だと認識しています。

【担任と学習支援ボランティアの関係】

前回のアンケートでは、定期的なミーティングの必要性を挙げてくださった回答がありました。当時は、先生・ボランティア双方がお互いに伝えたいことを十分に伝える機会がないという状況でした。改善策として、夏休みと春休みの期間中に支援の有無に関係なく、学年ごとに学年団の先生方と学習支援ボランティアでのミーティングを行っています。それまでの支援での気づきや疑問点を話し合い、次の支援をより良いものにするためにとても有意義な時間を持てていると感じています。また、報告書を毎回の支援後に書くことで先生とボランティアがその日のうちに情報を共有できるような体制もできました。報告書の流れは、まず支援直後にボランティアが記入し、特別支援コーディネーターの先生にポスティングします。記入された内容によっては担任の先生に伝えていただきます。この報告書には、子どもたちの個人名を記載せず、支援中の様子などを記入します。支援直後に記入することで支援の方法や声のかけ方などを振り返る時間が持て、ボランティア側のスキルアップにも役立っていると思います。

支援に入るボランティアが常に感じているのが、「子どもの『困り感』にどれだけ気づき寄り添えるか」「『これで良いのだろうか』という不安や疑問」です。子どもの数だけ支援のパターンがあり正解はないという認識を持ち、打ち合わせや勉強会などを重ねて知識を深め自分の引き出しを充実させるように努力し続けることが大切だと思っています。

○これからの学習支援ボランティア

学習支援ボランティアが活動を始めて 11 年余りが経ち、先生方にも学習支援ボランティアの活動が認められ多くの場面で支援をさせていただくようになりました。一方、先生の中には保護者がクラスに入ることに抵抗を感じている方もいらっしゃいます。私たち学習支援ボランティアは、保護者側からではなく、教育者側に立った支援で子どもたちを見ることができれば先生の抵抗感も薄れるのではないでしょうか。そのためには学習支援ボランティアのスキルアップが不可欠だと思っています。

また、休み時間を良い状態で過ごせれば続く授業も落ち着いた状態で着席できると考え、朝のパトロール同様に休み時間パトロールの活動を充実させていきたいと考えています。

そして、これまでも守ってきた「『クラス全体を見る』という視点を忘れずに活動する」

「守秘義務の徹底」「先生や学校の指導方法、子どもたちの言動などを批判しない」という決まりを徹底し、学習支援ボランティアへの理解と協力をさらに得られるよう講演会や勉強会などを実施していきます。

〇これからも大切にしていきたいこと

学習支援ボランティアの活動が広く浸透していく事で、子どもたち自身に思いやりの心が育まれ自然と仲間に手を差し伸べられるようなあたたかい気持ちで日々を過ごせるようになってほしいという願いを込めて活動を続けてきました。以前支援したクラスの子どもたちに学校ではない場所で偶然会うと挨拶をしてくれることが増えました。これも活動の成果だと嬉しく思っています。現在の学習支援ボランティアの約半数が卒業生の保護者や地域の方です。PTA だけでなく地域全体で子どもたちを温かく見守り育てていける環境をつくることが安定した学校生活の基礎を築くのではないでしょうか。これまでも、そしてこれからも、植竹小学校の子どもたちのために私たち学習支援ボランティアがお役に立てるよう活動の輪を広げていきたいと思います。

この活動にかかわって 10 年以上が経ちました。私には幸運にも娘が 4 人いたため、植竹小 PTA に長く在籍でき、会長を退いた後も現役保護者としてこの活動に関わることができ、その間に同じ思いを持つたくさんの保護者がメンバーに加わってくれました。そして多くのメンバーが卒業していきましたが､その多くが OB として学習支援ボランティアに残り、植竹小にいまだに来てくれます。自分で言うのもなんですが素晴らしいことだと思います。私も今年やっと卒業しましたが、コーディネーターとして残り、活動を継続しています。

この活動を続けて良かったことは、たくさんの子どもたちと知り合えたことです。初対面の時は反発していた子どもたちも、支援を続ける中で少しずつ仲良くなり、子どもたちから声をかけてくれるようになった時には本当に嬉しく思います。

それから、この活動をしてたくさんの子どもたちを知ることができました。知るといっても同じクラスの保護者が名前を知るというレベルのことではなく、その子の特性を知るということです｡これが学習支援ボランティアをやって得た一番大きなものだと思います。学習支援ボランティアとして、その子どもたちが植竹小学校に在学している間は支援の有無にかかわらず、先生方と同じようにその子にあった声掛けや見守りをしていきます。そして、子どもたちが卒業した後もその子のことを知っていることで何かの時にはその子の力になれたらと思っています。まさにそれが地域の力だと思いますし、その地域の力をこれから一人でも多く増やしていきたいと思います。

また、ボランティアリーダーとしての 9 年間に、多くの保護者の方々と出会い、話をさせていただきました。自分たちの活動が保護者の方々の気持ちにきちんと応えることができているかあまり自信はありませんが、子どもたちと接していく中で保護者の方々にも届けばいいなと思っています｡『あったかいクラス作りのサポーター』として子どもたちと接し、なおかつ同じ保護者どうし、お父さん・お母さんたちのサポーターにもなれればいいなと思いながらこれからも活動を続けていきたいと思います。

最後になりますが、植竹小学習支援ボランティアについて、このような立派な場で発表できる機会を与えていただきまして、本当に感謝いたします。
学習支援ボランティアを代表してお礼申し上げます。ありがとうございました。

（文責　埼玉純真短期大学　金子恵美子）

第６回埼玉純真短期大学研究セミナー　実践報告

あたたかいクラスづくりのサポーター
～ボランティアとして学級に入る～

さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティアコーディネーター　浅川光行先生ほか

学習支援ボランティア

あたたかいクラスづくりのサポーター
～ボランティアとして学級に入る～

さいたま市立植竹小学校PTA
学習支援ボランティア

学校概要

児童数810名
教職員数60名

普通級24クラス
特別級3クラス

PTA年間テーマ

あったかい　クラス作りの
サポーター

植竹小学校のボランティア活動

- 図書ボランティア
- ソーイングボランティア
- 美化ボランティア
- 防犯ボランティア
- おやじの会

平成19年より

- 学習支援ボランティア

さいたま市教育委員会主催の講演会

さいたま市特別支援教育講演会

講演1　「今後の特別支援教育について」
文部科学省初等中等教育局　柘植雅義氏

講演2　「校内体制づくり・LD、ADHD等の理解と支援・コーディネーターの役割について」
国立特殊教育総合研究所　篁　倫子氏

特別支援教育

学習障害（LD）
注意欠陥・多動性障害（ADHD）
高機能自閉症

40人学級に
2～3人

特別支援教育へのPTAの
理解と協力が必要不可欠

平成21年度メンバー

平成28年度メンバー

学習支援ボランティアとは

子どもたちが
楽しく学習できる環境作り
をお手伝いするボランティア

活動のねらい

◆子どもたちが落ち着いて授業を受けられ,先生が安心して授業を行える。

活動のねらい

◆ 支援を必要とする児童に関わる全ての人が，障がいへの理解，児童への理解，指導方法への理解，支援活動への理解を深めるとともに，当該児童の保護者の力となり，皆で一体となって温かく見守り，育てていく環境をつくる。

こんな時に活動します

お子さん本人からの要請があった場合
または
保護者の方からの要請があった場合

＋

担任(担当)の先生からの要請があった場合

きまり

クラス全体をみる
という視点
を忘れずに支援を行う

きまり

クラスに入って活動した時に見聞きしたことの
守秘義務の徹底

きまり

担任の先生や学校の指導方法，子どもたちの言動等の批判をしない

主な活動内容

- 定例会議
- 朝パトロール
- クラス支援
- 補助支援
- 講演会、勉強会の開催

定例会議

定例会議

コーディネーター教諭(CN)が各担任に支援日時を募る

↓

スケジュール表にまとめ、定例会議で配布

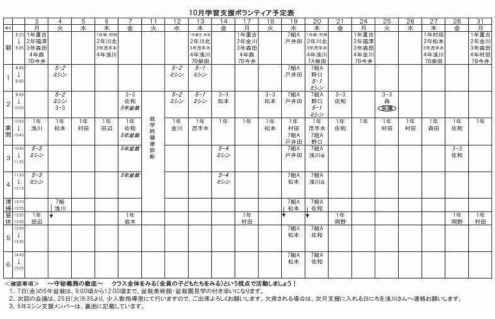
↓

当月の支援での気付いた点などの情報交換
CNより翌月の支援での依頼事項の説明

↓

先生方退席後、各支援の担当者決め

活動予定表(サンプル)



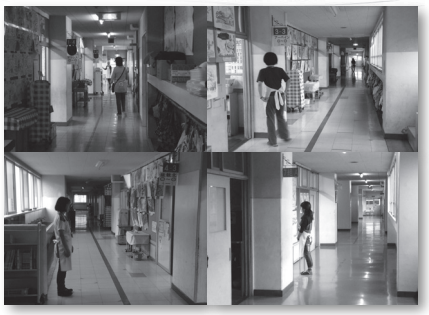
10月学習支援ボランティア予定表

	3	4	5	6	7	11	12	13	14	17	18	19	20	21	24	25	26	27	28	31
	月	火	水	木	金	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
朝	8:00			(9:00～9:50)				(9:00～9:50)		(9:00～9:50)			(9:00～9:50)		(9:00～9:50)			(9:00～9:50)		(9:00～9:50)
	1.2.3.4.5.6年			2年川北 3年吉本 4年浅川				2年川北 3年吉本 4年浅川 7(6)年田		2年金川 3年森田 4年森 7(6)年赤		7(6)A 戸井田	2年川北 3年吉本 4年浅川 7(6)年田		1年富吉 2年福澤 3年森田 4年金川 7(6)年赤			1年村田 2年松本 3年吉本 4年浅川 7(6)年田		1年富吉 2年金川 3年森田 4年村田 7(6)年赤
1	8:45 1.2.3.4.5.6年 9:30		5-2 ボランティア					5-2 ボランティア	5-1 ボランティア				7(6)A 戸井田	7(6)A 野口 5-1 ボランティア							
2	9:45 1.2.3.4.5.6年 10:30		5-2 ボランティア 3-3		3-3 依和 5年留守番	校内研修のため学校は休業	5-2 ボランティア	5-1 ボランティア	3-3 松本		3-3 松本	7(6)A 戸井田	7(6)A 野口 5-1 ボランティア	3-3 依和		3-3 森 (変更)				
業間	10:40 1.2.3.4.5.6年 11:25	1年 浅川	1年 松本	1年 村田	1年 田辺	1年 依和 5年留守番		1年 金川	1年 笠李木	1年	1年	1年 松本	1年 村田 7(6)A 戸井田	1年 笠李木 7(6)A 浅川佑	1年 依和	1年	1年 村田	1年 村田	1年 森田	1年 依和	1年
3	11:40 1.2.3.4.5.6年 12:25		5-3 ボランティア			5年留守番				5-4 ボランティア			7(6)A 戸井田	7(6)A 浅川佑						3-3 依和	
4	13:30 1.2.3.4.5.6年 14:15		5-3 ボランティア			5年留守番				5-4 ボランティア			7(6)A 松本	7(6)A 浅川佑							
清掃	14:25 1.2.3.4.5.6年 14:35		7(6) 浅川										7(6)A 松本	7(6)A 依和						
帰宅	14:40 1.2.3.4.5.6年 15:00	1年 田辺				1年 鈴木					1年 村田			1年 岡野					1年 岡野	1年 村田
5	15:00 1.2.3.4.5.6年 15:45												7(6)A 松本	7(6)A 依和						
6	15:45 1.2.3.4.5.6年 16:30												7(6)A 松本	7(6)A 依和						

<連絡事項>　～守秘義務の徹底～　クラス全体をみる(全員の子どもたちをみる)という視点で活動しましょう！
1. 7日(金)の午後学級は、9:00頃から12:00頃まで、授業美術館・学習園見学の付き添いになります。
2. 次回の会議は、25日(火)9:55より、少人数指導室にて行いますので、ご出席よろしくお願いします。欠席される場合は、次月支援に入れる日にちを浅川さんへ連絡お願いします。
3. 5年エシレ支援メンバーは、裏面に記載しています。

先生方との交流会

朝パトロール



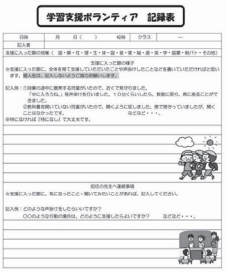
クラス支援(1年生)

補助支援

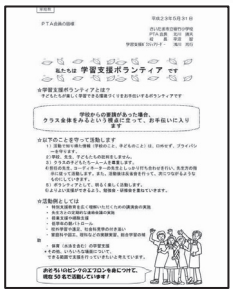
- プール支援
- 書初め
- ミシン
- 芋掘り
- まち探検
- 盆栽園見学

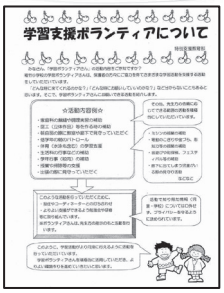
申し送り・報告書

- 情報の共有
- 守秘義務の徹底


学習支援ボランティア　記録表

保護者・新任者への紹介

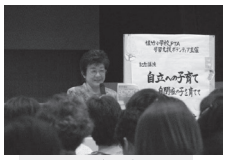




学習支援ボランティア主催の講演会など

木村泰子先生

学習支援ボランティア主催の講演会など



明石洋子さん
H22.10.14 講演会

阿部利彦先生
H24.2.10　勉強会
H24.6.13　講演会

学習支援ボランティア主催の講演会など

伊藤道雄先生
H21.11.25　講演会
H22.6.16　講演会
H23.5.12　勉強会
H24.7.13　勉強会
H25.7.11　講演会
H26.7.17　勉強会

H27.6.4　講演会
H27.2.26 勉強会

吉田昌義先生

山口孝一先生
H21.5.27　講演会
H23.6.27　講演会
H24.11.21　講演会
H25.6.25　勉強会
H26.12.4　勉強会

これまでの活動から
見えてきたこと
これからも
大切にしていきたいこと

先生方へのアンケートより

学習支援ボランティアの存在とは？

- 子どもたちを見守ってくれる心強い存在
- 頼りになる存在
- 学校の実態をふまえた
  架け橋のような存在

先生方へのアンケートより

学習支援ボランティアが
支援に入っての感想は？

- スムーズに学習が進められる
- 個別に声かけが必要な子に教師が目を向けやすくなる
- 落ち着いて学習できるようになってきた

先生方へのアンケートより

「子どもたちも嬉しそうな顔をしているので、子どもたちにとって身近な存在なのだろう」

先生方へのアンケートより

「子どもたちへの対応を今一度考える機会になった」

「我々教員の指導にも、良い意味でブレーキをかけられると思う」

先生方へのアンケートより

「学習支援ボランティアに甘えてしまい、学習意欲の下がる可能性のある児童がいる場合には支援を依頼しない」

先生方へのアンケートより

「特別支援教育への手伝い」
という観点では？

- 大人が近くにいることが子どもにとって安心感につながる
- 支援が必要な児童によく声をかけてくれる

ボランティア側より

PTA組織内に窓口を設けたことで

- 障害をもつ児童の保護者が孤立しなくなった
- 保護者間の相互理解が深まった
- 保護者全体が「特別支援教育」について考えるきっかけになった

ボランティア側より

- 一人の先生が40人を受け持つことの大変さや難しさがわかった
- 先生の大変さがわかり、感謝しながら、できることをお手伝いしたいと思った

ボランティア側より

- 時が経ち以前支援に入ったクラスの子どもたちの成長を感じると嬉しくなる
- 発達障害について勉強できる
- できるまで待つことの大切さがわかった

ボランティア側より

「なんだこのおばさん」だったのが

「知っているおばさん」になり

「〇〇さん（名前）」になっていく

過程にやりがいを感じる

個人情報の問題

- 情報が出てしまうのでは？
- 守秘義務が徹底されているのか心配

担任と学習支援ボランティアの関係

- 長期休暇中のミーティングの実施
- 支援後の報告書

担任と学習支援ボランティアの関係

報告書の流れ

支援後ボランティアが記入

↓

特別支援コーディネーターの先生

↓

（必要に応じて）担任の先生へ連絡

ボランティアの本音

- 子どもの「困り感」にどれだけ気付き寄り添えるか
- 「これで良いのだろうか」という不安や疑問

これからの学習支援ボランティア

- 先生と一緒に取り組めること
- 休み時間の過ごし方支援

確認事項

- 「クラス全体をみる」という視点を忘れずに活動する
- 守秘義務の徹底
- 先生や学校の指導方法、子どもたちの言動などを批判しない

私たちが これからも 大切にして いきたいこと

学習支援ボランティア
あたたかいクラスづくりのサポーター
～ボランティアとして学級に入る～
おわり
さいたま市立植竹小学校PTA
学習支援ボランティア

第６回埼玉純真短期大学研究セミナー　講演

私の生きがい・やりがい

アスリート（マラソンランナー）　　金子　遼先生
（父　金子準一郎様　　母　金子亜矢子様）

みなさん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました金子遼です。
今日は、
１：自己紹介
２：世界大会での感動体験
３：陸上を始めたきっかけと中学高校時代
４：自閉症という障害について
５：夢に向かって猛練習
６：これまで私を支えてくれた人達への感謝
７：これからの誓い
と言う流れでお話を進めていきたいと思います。

では、まず初めに、自己紹介です。
改めまして、私の名前は　かねこ　りょう（遼）です。
昔は、りょうの文字を説明するのに苦労しました。
でも石川遼くんのおかげで、「遼」の文字の説明がすごく簡単になって助かっています。
これからは、世界のもうひとりの遼くんとして私の事も、覚えてください。
私は、１９９０年・バレンタインデー生まれの２６歳です。
チョコレートはもちろん、甘いものが好きなスイーツ男子。
プリンやコーヒーゼリーなどを自分で作っては良く食べます。
アスリートはカロリー制限する人が多いのですが、毎日猛練習でカロリーを消費していますので１８６センチ６２キロを維持しています。
私は、熊谷市内の小中学校を卒業後、行田特別支援学校高等部と進み、就職しました。
今年で８年目となる職場【いずみケアセンター】は、比企郡滑川町の老人介護施設です。
そこで朝の８時半から、5時頃まで調理補助の仕事をしながら趣味の走りを続けています。

それでは、自己紹介も終えたところで、２つ目の｛人生で最も感動した体験｝についてお話します。
私は、２０１３年６月１１日にチェコのプラハで行われたアイナス世界陸上選手権に出場し、１万メートルで優勝。ついに「世界一」になることができました。
アイナス世界陸上選手権と言う大会は、２年に１度行われる世界大会で、知的障害者が目指す、世界で一番大きな大会です。後でもお話しますが、3度目の出場でようやく私の「夢」のひとつ「世界一」を叶えることができました。

陸上の大会では良いタイム、つまり「記録」を狙うレースもありますが、世界大会では、どの国もどの選手も、メダルを狙っているので、速く走ることよりメダルが取れる走り方が大切になります。
最初に飛ばし過ぎて後半バテたら大変ですから、その時も１万メートルの競技はかなりスローなレース展開でした。１万メートルは４００ｍトラックを２５周も走ります。
私も慎重にペースを守りながら走っていましたが、あまりにゆっくりだったので、監督からの指示もありフランスの選手と２人でレースをひっぱる形になりました。
しかし５キロ地点で、フランスの選手に急にペースをあげられてしまい、一時は５０メートルも離されてしまいました。
内心、焦りました。
しかし、その後少しずつ距離を詰めて行って、残り２キロのところでようやく追いつく事ができました。
あとは、何とか気力で逃げ切ってゴールしました。
この日レース時間の３時には３０度もあり、タイムは３３分１５秒でしたが、
とにかく優勝できてほっとしました。

日本からは、このレースには３名出場していました。
私が、ずっと目標としてきた６歳上の木村先輩も３位に入賞しました。
優勝もうれしかったですが、今まで一度も勝つことの出来なかった木村先輩に勝つことが出来たこともすっごくうれしかったです。
表彰式もスタジアムで行われますが、優勝国の旗が掲げられ、国歌が流れると、そこにいる選手・観客も全員が起立して選手に敬意をはらってくれます。
大きな拍手で称えられ、陸上を始め１０年間、苦しい事はたくさんあったけれど、ようやくこの日が来たと嬉しく思いました。

先ほど３度目の出場でとお話しましたが、
初出場は１７歳の時、ブラジル大会です。
２度目は、１９歳の時にチェコのリベレッツでの大会です。
この時は、職場の同僚から、応援のメッセージの書かれた日の丸の旗と職場での募金を頂きました。
ややプレッシャーを感じて出場しましたが、
１万メートルで５位と、メダルにはわずかに手が届きませんでした。
先ほどお話した木村先輩は、この大会で銀メダルをとりました。
最後の１キロまでは、私が木村先輩の前を走っていました。
だから、次の大会では、絶対にメダルを取ろう！と誓いました。
ところが、その大会には出場さえ叶わなかったのです。
なぜかというと国内選考で、敗れてしまったからです。
国の代表として出場するため、１種目最大３人しか出られません
仮に日頃良い記録が出ている選手であっても、選考レースで失敗すると選ばれる事はあり

ません。
みんな出場したいのですから、当然ですが非常に厳しい世界なのです。

イタリア大会に出られないことが解った時は、かなり落ち込みました。
目標が遠く逃げて行ってしまった様に感じて、厳しい練習をする気力を失いかけました。
『しかし、これで練習をやめれば、もう世界１にはなれないのだ・・』と思うと、
２年先の次の大会を目指すしかないと思い直しました。
くよくよしている私の姿を見た母が「臥薪嘗胆」と言う言葉を教えてくれました。
皆さんは、この言葉を聞いたことがあるでしょうか？
この４字熟語は【わざと痛い薪の上に寝て、いつも苦い肝をなめて悔しさを忘れないようにして、リベンジを果たす】と言ういみです。
難しい文字ですが、私は、この言葉を大きな紙に書いて自分の部屋の壁に貼りました。
その隣に、毎日欠かさずやる筋トレメニューや、走った距離のグラフなども貼って、
「絶対に次の世界大会には出場する！」と心に誓いました。
そして『世界イチになるまでは、陸上を絶対にやめないぞ！』と強く心に誓ったのです。
みなさんも
『こんなに頑張ってもダメなのだから、自分には向いていないのかもしれないな？やめちゃおうかな？』と思った事はありませんか？
だけど、止めてしまえば絶対に夢は叶いません。
夢を叶えようと強く思って、本気で努力しなければ、自分の思った通りの結果は得られません。
そして、悔しがったり苦しんだりして頑張った結果、ようやく叶えた夢ほど達成感を感じられる嬉しい事もないでしょう。
あの日、夢をあきらめずに、リベンジを誓って２年間努力を続けたからこそ、本当に３度目の正直で金メダルのご褒美をもらえたのだと思います。
だから、自分の思い通りにならないことも、きっと悪い事ばかりじゃないと思うようになりました。
私は、それ以来レースで失敗しても、神様の遊びと思うようにしています。

この後は、３つめの話、私が陸上を始めるきっかけとなった富士見中時代の事や
私が約１０年の陸上競技生活を通して感じたことなどもお話していきたいと思います。
私は、中２から走る習慣ができました。
私は当時からずっと痩せていましたが、特別支援学級の友達はぽっちゃりした人が多くいました。そこで、ぽっちゃりした生徒の運動不足を解消させようと言う板倉先生の考えで、
私たち特学の生徒は下校する前に毎日校庭を３周する事になりました。
私は、家が遠かった事もあり、とにかく早く下校したい一心で、毎日３周を全速力で走っていました。
たまたま、それが陸上部の柿沼先生の目に止まり、中３になる時に名門富士見中陸上部に

入部する事になりました。それが、私が本格的に陸上を始めたきっかけなのです。
でも最初は全然乗り気ではありませんでした。
だから、始めは何となく断れずに始めた陸上部でしたが、これが意外な展開となりました。
それまで私には、友達は数えるほどしかいませんでしたが、陸上部入部で一気に５０名もの仲間ができました。名門陸上部のユニホームを着て、張り切って練習している内に、どんどん速くなりました。なんと入部５か月後の中３の夏には、熊谷市中学陸上大会３０００メートル走で優勝しました。
話はそれますが、熊谷市で行われるさくらマラソンをご存知の方いらっしゃいますか？
中学生は５キロはしりますが、中学生には結構ハードです。
私は、地元でもあり中学時代は毎年出場しました。
まだ陸上を始める前、１年生の春の記録、出場した５００人位の中で何位だと思いますか？
正解は２７２位でした。記録は　２３分４９秒。
だいたい真ん中でした。だから別に速いって程でもありませんでした。
さて２年生のサクラマラソンの日。
実はこの日初めて富士見中のユニホームを着て走りました。
３年生になったら陸上部に入部する事になっていたのですが先生が準備してくださり、
３月のこの日に間に合ったのです。
だから富士見中陸上部の名をけがさないように走らなきゃ！と思って、頑張ったら１８分弱で走れました。その時は、２６位でした。
やっぱり、気合ですかね？前の年より２５０人も抜かした計算です。
富士見中のショッキングピンクのユニフォームが、私のやる気スイッチを押したのですね。

３年生の春には、もう１年間みっちり鍛えられたので、１６分４０秒、
そして８位入賞もしました。
ですから、やる気スイッチが入れば、スポーツでも勉強でも、その人なりに必ずレベルアップできると思いますよ。
話を戻しますが、この年２００４年には、埼玉県で国体が行われました。
そして国体開催の翌月には全国障がい者スポーツ大会が開催されますが、陸上部で鍛えて頂いたおかげ私も埼玉県の代表として参加することが出来ました。
ものすごく寒い日でしたが、私のために、部員全員が集まって、富士見陸上部の応援旗や横断幕を競技場のあちこちに準備してくれました。
おまけに「金子先輩、シューズは僕が持ちます！」「ドリンクは僕が」などと、何人もの後輩が申し出てくれました。その日行われた１５００Ｍは、４分４７秒とタイムは平凡でしたが、少年の部で１位となる事ができました。
応援してくれた、仲間たちのおかげでもらえた、私にとって初めての金メダルです。
実は、私が通っていた「なでしこ保育園」からも、先生方や園児たちも黄色い幼稚園バスで駆け付けてくれました。保育園時代は、すごく手のかかる子供だった私が代表選手に選ばれた事に先生方は驚いたそうです。
なでしこの先生方が、あふれる愛情で私を育てて下さった事、とても感謝しています。

こんな風にまわりのみんなから応援してもらっているのだと思うと、自分としても「もっと速くなりたい」と思うようになりました。
そして実際に良い記録が出ると、交流クラスの同級生からも「金子君すごいね」「次の大会も頑張ってね」と声をかけられるようなりました。

小学校では、人と違う変わった子だと思われていたこともあって、いじめにあっていました。ですから、普通学級の友達や、先輩と呼んでくれる後輩ができるなんて思っていませんでした。でも一生懸命何かをやれば、友達も自分の事を一人の人間として認めてくれる事を知りました。「金子先輩」とたくさんの陸上部の後輩から呼ばれ、とても誇らしい気持ちで中学生活をおくる事ができたのです。
このように、走る事で仲間を増やし、成果を出すことで人から認められるうれしさを知った私は、いつの間にか走る事が大好きになっていました。

自己紹介でお話したように、私は行田養護（現在の行田特別支援学校）の高等部に通っていたので、自分の学校には一緒に陸上の練習をする仲間がいませんでした。
そこで当時私の父が勤務していた行田進修館高校の陸上部の練習に参加させて頂くことになりました。
休まずに練習に参加しているうちに、進修館の先輩方も色々なアドバイスをしてくれるようになりました。そして一緒に陸上部の合宿や富士登山にも連れて行ってもらいました。
もちろん、進修館のユニホームを着られるわけはありませんでしたが、気持ちの上では同じ陸上部の部員として私の事を気にかけ、仲間と思って接してくれた事を、とても感謝しています。
１８歳になり、初めてのフルマラソンにチャレンジしてみました。
完走できるか不安でしたが、ペースを守って走ったら思った以上の成果が出ました。
ビギナーズラックでしょうか？2 時間３５分の記録は、実はその後３年間は更新できませんでした。しかし、これも「神様の遊びだ」と思って毎年挑戦を続けました。
１９歳では、アジアユース大会に出場が叶い、夢の舞台・国立競技場で走る事が出来ました。この時もテンションがあがり、１５００ｍの自己ベストを更新し金メダルを頂きました。

ここからは４つ目のお話、
「自閉症」と言う私のもつ障がい、その特徴についてお話したいと思います。
実はちょっとした日常のやりとりでは、私の障がいに気が付かないと言う方もいるようです。
自閉症と言っても、すべてにおいて普通の人より能力が劣っているという訳ではありません。むしろ、他の人から驚かれる特技もあります。
例えば、私は、記憶する事が得意です。
興味があるのは、誕生日。一度聞くと、何十年経っても忘れません。
初めて会う人には、まず誕生日を聞きたくなります。

今日、お誕生日を迎える人の名前を７人くらいは言えます。
フルネームを知らなくても、例えば山田デンキの〇〇さんと言うふうに、記憶しています。
多分２０００人以上は、覚えていると思います。
誕生日のほかにも、車のナンバープレートの番号も、多分１，０００台以上は覚えています。街を走っていると、ナンバーで誰がどこに居たと解ります。
カレンダーも、なぜか頭の中に入っているので４年後の今日は、何曜日かと聞かれると、なんとなくわかります。

でも、苦手な言もいっぱいあります。
特に困るのが、言葉であいまいな指示を受けることです。
「適当な大きさでいいから、その食材を切っておいて」とか、「だいたい綺麗になれば良いから机を拭いておいて」というような指示です。
皆さんは、「適当でいい」と言われたら、「適当」にできるのですよね？
私は、大いに悩みます。どれ位が適当か、だいたい綺麗かが解らないからです。
他にも上手く対応できなくて困る場面があります。
私は漢字検定の３級を高校１年生の時に合格しましたが、その勉強の中で一番難しかったのが、反対の意味の言葉を選ぶというものでした。
「長い」の反対は「短い」とか、こんなレベルならならすぐ解るのですが、
「穏やか」の反対の言葉を選ぶことが出来ません。
「おだやか」って言う意味が、説明されても良く解らないからです。
皆さんには、何となく解ることが、私には全く解らないと言う事。
こういう事は実は、かなり多くあります。
それから、予想外の事が起こると、誰でも焦ってパニックになる可能性はあると思います。
ただ私の場合は、小さな予想外の事にもパニックになる場合もあります。
ですので、予想外の事が起こらないように、決まった時間に決まった道を通って通勤するなど、自分なりの対処をしています。

以上は私に関しての障がいですが、身体障がいの方の様に、見た目では障がいが解らないため、人から理解されずに困る場合も多いことを、自閉症を代表して皆さんには知って頂きたいと思います。

ここからは私の毎日の練習などについて簡単にお話します。
私の目標のひとつは、マラソンで２時間２０分を切る事！です。
そこで、私は実業団もビックリの練習量をこなしています。
ひと月にどれくらい走ると思いますか？
３００キロと思う人、拍手してください。
６００キロと思う人
１０００キロと思う人
正解は・・・・・・大体ひと月で６００キロ位です。

一か月６００キロと言ったら、１日何キロ位走るか解りますか？
２０キロ、一日に走ったことある人いますか？
どれくらいの距離か、ちょっと想像してみてください。
熊谷駅から、羽生駅くらいでしょうか？
たぶん、皆さんの中でこの距離を歩いて移動する人はいらっしゃらないでしょうネ。。
仕事を終えて、だいたい６時頃から２時間位が練習時間です。
休息日でも、最低でも６０分ジョグで１５キロは走ります。
きつい練習日は、１０００Ｍを３分１０秒以内に走る設定で、それを１０本行います。
それでも、走行距離が足りないので、朝３０分出勤前に走っています。
土日は、もっとハードな練習です！
今年は、６月の４日から８月２８日まで、週末はずっと赤城で合宿をしました。
土曜の朝８時ごろ出発して、赤城につくなりすぐに午前中に２５キロ走ります。昼休みをとって午後また２０キロ走ります。翌日は、朝から一気に４５キロ走ります。
そういったハードトレーニングを７年ほど積み重ねた結果、２０１５年の１２月には
山口防府読売マラソンで、２時間２４分２１秒の自己ベストを更新し、２０１２年に自分で作った知的障がい者の世界記録を更新することができました。

ところで、陸上の恩師、久保監督と出会ったのは、８年半前の事です。
私にとって最悪のレースの想い出の日でした。

就職して練習場所や練習相手もなくなり、レースで初めてペケになり落ち込んでいた私に、「良かったら、私のクラブで一緒に練習しませんか？」と声をかけてくれたのが久保さんでした。あの日、ペケになって久保さんの目に留まったから、今の私があります
何がラッキーで何がアンラッキーだったかなんて、後にならないと解らないものです！

それ以来、雨の日も大風の日も、監督と一緒に走っています。
監督は、夜間に森林公園の外周を走る時には、私の後ろを車で追いかけてタイムも取ってくれます。また大阪、福岡など国内はもちろんの事、南米のエクアドルであっても私の大事なレースの時には、どこへでも必ず来て下さいます。
そこまで応援してくださる監督に、私は絶対の信頼を寄せているから監督が出した練習メニューは、苦しい時でも必ずやりぬくのです。

また滑川走友会の仲間も、みな素晴らしい人達です。年齢も１０代から６０代と中には親子で入っている人もいます。そして警察官やサラリーマン、大工さんと職業も様々ですが、みな「走る」と言う共通項で結ばれた素晴らしい関係が築けています。

滑川走友会は、埼玉県駅伝にも連覇していて、昨年は６名全員が区間賞と言う快挙を達成しました。それだけに、Ａチーム争いは過酷です。
しかし、そんな良いライバルがいるから、キツイ練習にも耐えられるのだとも思います。

一人では、苦しい事はやり遂げられない。
でも、同じ目標に向かって励ましあったり、助け合ったりする仲間がいるからこそ頑張れる、皆さんも同じような体験をしているのではありませんか？

仲間と言えば、日頃私をサポートしてくれる職場の仲間たちの話もしたいと思います。
私が、8時半から4時半まで勤務するいづみケアセンターは老人介護施設です。
そこで暮らしているお年寄りもいるため、私以外の職員は３交代制です。利用者様の食事を提供するためには、土日も、年末年始の休みもありません。
そんな大変な職場にいる仲間たちですが、私が世界大会出場で長期休暇を申し出た時にも「出場おめでとう、頑張って来いよ」と温かい言葉をかけてくれます。
ですから、もっと強く、もっと速くなることが、そうした私を支えてくれる仲間たちへの恩返しだと思っています。

世界大会優勝をきっかけとし、熊谷市長特別賞や塙保己一奨励賞、埼玉県体育協会会長賞など、名誉ある賞をいくつも頂きました。また、熊谷市内の中学３校での講演や、障がい者教育に携わる先生方の研修会での講演などもさせていただきました。
支援学級の生徒だった私が、講演依頼を受けるなんて、１０年前には両親も私も思いもしなかった事が今起こっているのです。
ですから、『たとえハンディキャップを持っていたとしてもスポーツを通して自己実現できる！』と言う喜びを、これから知り会う人々に伝えていく事も、私の使命だと考えています。

実は、世界１を果たした次の世界大会、去年 9 月のエクアドル大会の１万メートルでは、２位となり２連覇の夢を果たすことができませんでした。
７０００ｍでライバルのホセを振り切りトップ独走状態だったのですが、残り１キロちょっとのところで突然に酸欠状態となり倒れてしまい、レース棄権も頭をよぎる状態となりました。何とか立ち上がって歩き始めたところで、ライバルのホセ選手に抜かれてしまいました。
エクアドル大会は、２８００ｍの高地で行われました。富士山の５合目より高い場所です。
高地対策を十分していったつもりでしたが、想像を絶する厳しさでした。
私以外にも、たくさんの選手がタンカで運ばれていました。

連覇を逃したことで、気力がダウンしたからか、今年の４月には髄膜炎で入院生活を送るはめになり、約２か月通常の練習ができない状況でした。７月に来年の世界大会の予選が行われることが解っていたため、入院中も７月までに復帰できるか不安な気持ちでいっぱいでした。何しろ８年間、走らなかった日は１日もなかったのに、走れない日々が

しかし、そんなピンチの時も久保監督が私の不安な気持ちを支えてくださいました。
「大丈夫だ。走れるようになれば、１か月で戻せるように練習メニューも考えてある。だ

から今は病気を治すことだけに専念して良いんだよ」と、何度も病院に足を運んでくださいました。
その結果、６月からの練習再開という短い期間にも関わらず、７月末の予選では１万メートルで優勝、５千メートルでも２位となり、来年タイで行われる世界大会出場の切符を手にすることが出来ました。
今度こそ、ホセ選手を倒し再び世界王者となって見せる！
その為にも、これまで以上に頑張って練習を続けていきたいと思います。

また、来月にポルトガルで行われる世界ハーフマラソンでも、昨年の銅メダルを上回る結果を出したいと思っております。

話がいろいろ脱線もしましたが、以上が本日みなさんにお話ししたかった事です。
みなさん、静かにお聞きいただき誠にありがとうございました。

（文責　埼玉純真短期大学　細田香織）

第６回研究セミナー参加者

１．参加者　計　　１４８名
　来賓・指導助言者・提案者　　１４名
　一般参加者　　７０名
　　・第１講座　　１４名
　　・第２講座　　１２名
　　・第３講座　　１４名
　　・第４講座　　１５名
　　・午後のみ　　１５名
　大学関係者　　１７名
　学生　　４７名（２年ボランティア２５名を含む）

平成２８年度第６回埼玉純真短期大学研究セミナーアンケートの結果

１．アンケート回収率　　６１％（４３名／７０名）

２．男女別アンケート回答者（一般）　　男　１０名　女　３３名

３．年齢別参加者
　①　１０歳代～２０歳代　１２名　　②　３０歳代～４０歳代　１７名
　③　５０歳代　　１１名　　④　６０歳以上　　３名

４．所属・役職等
　①　一般　　６名　　②　保育園　　８名
　③　幼稚園・こども園　２名　　④　小学校　　１０名
　⑤　中学校　　０名　　⑥　高等学校　　１名
　⑦　特別支援学校　　０名　　⑧　関係機関　　２名
　⑨　その他　　１４名
　（　その他　：　障害者福祉作業所、児童養護施設、学童保育、放課後デイサービス小学校 PTA、学生など）
　（　役職　：　教頭、教諭、保育士、特別支援学級支援員、理事表、園長、家庭支援専門相談員、学習支援員、学習支援ボランティアなど）

５．セミナーの情報入手
　①　学校（園、教委）　　１６名　　②　地域の会館等のチラシ　　０名
　③　地域の研究会　　４名　　④　友人や友達から　　３名
　⑤　大学から　　１５名　　⑥　その他　　５名
　（その他：　施設・職場内での回覧、教員免許状更新講習時の案内、昨年も参加した、毎年参加している　など）

６．参加しての感想をおきかせください

（１）　講演について

①　とても良かった　２２名　②　良かった　１２名
③　まあまあだった　０名　④　少し物足りなかった　０名
⑤　期待したものになっていなかった　０名　⑥　無回答　９名

（２）　実践報告について

①　とても良かった　１６名　②　良かった　１６名
③　まあまあだった　４名　④　少し物足りなかった　１名
⑤　期待したものになっていなかった　０名　⑥　無回答　６名

（３）　講座について

①　とても良かった　２５名　②　良かった　７名
③　まあまあだった　２名　④　少し物足りなかった　１名
⑤　期待したものになっていなかった　０名　⑥　無回答　９名

（４）　セミナーの運営について

①　とても良かった　２９名　②　良かった　１３名
③　まあまあだった　２名　④　少し改善したほうがよい　０名
⑤　改善を希望する　０名　⑥　無回答　４名

（５）　参加しての感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

○　講演について

・　どんな人もかくれた才能があり、それが何かわからないけど、可能性を信じることが大切という、お父様のお話に感動しました。
・　とてもステキな講演でした。元気をもらいました。
・　発達障害を持っている子供が、将来も希望を持っていけることの素晴らしさを実感。
・　感情が伝わって来ました。
・　ご本人から直接お話が聞けてよかったです。
・　障害のある方が講演することはあまり考えず、ご両親の話が主かと理解していた。このような企画をしていただき感動です。
・　明日から実践できる支援のヒントをいただきました。
・　御両親、本人のお話、大変すばらしかった。「可能性」伸ばすことに明日から取り組みます。
・　知的障害者である金子遼さんのお話は２回目です。彼の一途ながんばり、まわりのささえが輝かしい勝利をもたらしてくれました。「本気になれば何でもできる」の言葉に力を得ました。

- 普段聞けない知的障害者のアスリートランナーさんの話が聞けて、勉強になりました。
- 同じ障害を持つ子どもたちにも話してあげたいくらい、どうどうとしてとても良かったです。
- 障がいがあっても、可能性を信じ頑張る金子さんの話に勇気をもらいました。
- 努力はたくさんなさっていることでしょう。スピーチもとても上手でした。がんばってください。
- ハンディキャップを持っていても、本人のやる気次第でどうにでもなることを勉強させてもらいました。
- とても良いお話を聞くことができました。ありがとうございました。
- 苦しくてもやり通そうと思う彼なりの取り決めが、よい方向に動いたようだ。これからもアスリートとして頑張ってほしい。
- とても力強く、肝に銘じておきたい内容ばかりでした。金子選手の今後の活躍も楽しみです。ぜひ応援したいです。
- 努力することの大切さ、改めて感じました。自分を信じて前向きに進む遼さん、かっこいいですね。スピーチが苦手といいますが、わかりやすく上手でした。楽しいお話でした。自分の特性を理解して克服しているのですね。これからの活躍も期待しています。頑張ってください。
- 感動的でした。特に金子選手のが。来て学べて良かったです。

○　実践報告について

- 地域ぐるみで子供たちのサポートをするボランティア活動に共感しました。
- 保護者の方がどれくらいまで子どもに接してよいのか、疑問を感じました。
- 驚いた。同職で収入を得ているので、無償であることに抵抗ありました。
- 守秘義務、シフト、人員の資質など、問題点になりうる点をどのようにクリアできたのか。もう少し詳しく聞きたかったです。
- 以前、仕事で支援をしていました。ボランティアでされているとのこと。仕事でも精神的、肉体的にきつかったので頭が下がります。
- 保護者が参加する事業を小学校でやっていることに驚いた。
- すごい取り組みだと思った。
- 勉強になりました。
- 小学校には学習支援ボランティアというのがあり、悩みを持つ保護者の方に話を聞き、子どもを支えているボランティアは素晴らしいと思いました。
- 学習支援ボランティアを PTA で立ち上げ、今もずっと活動を続けている。なかなかやりたくても実践できない活動だと思います。ぜひ長く続け、他の学校の先駆けとして手本になってください。いずれ、他の地域でも実践されてくるのではないかと思います。
- この講座を聞くまで、学習支援ボランティアというのを知らなかったのですが、こういった取り組みをしている小学校があると知れてよかったです。

・ 初めて聞く内容だったので、とても興味が持てました。
・ 学習支援までボランティアがきめ細かく活動していることにおどろいたが、本来であれば公教育が行わなければならないのだろう。大変な努力の基で成り立っている。
・ 学習ボランティア、地域全体で子どもを育てるという内容で、とてもいいと思います。
・ 素晴らしい実践だと思います。
・ 学生向けでなかったので少し難しかった。
・ サポーター体制はすばらしいと思った。ボランティア達が何かの時に心に傷を負ってしまうことがあるので、その対策について知りたかった
・ PTA の連携ということで、かなりレベルの高い取り組みでしたが、ぜひ参考にさせていただきます。
・ ボランティアといっても、とても難しい分野であると思うが、現在まで長年にわたり多人数で継続してきた実績、素晴らしいと思います。
・ 内容がよくまとまっていて、すばらしかった。おつかれ様でした。
・ ボランティアのポイントが聞けて、なっとくでした。

○　講座について

・ 音楽があるとみんな笑顔になって、楽しく活動できると感じました。
・ 体を使い、実践的な講座でした。すぐに学校で実践できそうです。ありがとうございました。
・ ビリーブの活動には、支援した児童が通っていたり、スタッフの方と一緒に支援の仕事をしていたため、ずっと興味がありました。今回の参加も、ビリーブの講座があったからです。
・ また参加したいです。納得できる音楽教育を聞けたのは初めてです。
・ 現場で使えるリトミックが多く、参加してよかった。
・ レクが楽しかったです。
・ 講座２に参加しましたが、人とコミュニケーションをとるゲームなど楽しかった。
・ コミュニケーションをとる。達成感を味わう。誰でも無理なく楽しめるレクリェーションを体感できて良かったです。
・ 事例の情報がもっとほしかったです。しかし、グループで話していく中で、情報を交換でき、学ぶことができました。
・ 他職種の方の話を聞く機会は貴重です。いつも稲垣先生のお話で勉強させていただいています。また、藤井先生の中学校教員としての立場でのお話は、大変参考になりました。
・ より具体的な事例を示していただけると、話がしやすかったと思います。KJ 法は互いに話しやすいのですが、深まりが薄いので、指導者がグループの中に入っていただき、より深い考えに導いていただけるとありがたいです。
・ ３講座で KJ 法で演習をしました。模造紙などにまとめる際、書画カメラ等を使用

して発表に向けてほしい。
・ 現役の先生の実体験など、貴重な話が聞けてためになりました。
・ 色々な職業や体験をされている方の意見などが聞けて良かった。
・ 障害のある子の保護者の参加が増えるといいと思いました。
・ 基本的な話から、実践例も含めて聞くことができて、有意義な時間を過ごすことができました。
・ グループ討議の時間がもう少し長い方が、先生方からまたご意見に対して深く話し合いができたと思います。
・ 様々なお話が聞けて、貴重な時間でした。
・ 様々な立場の人の悩み、現場の対応がわかった。
・ 子育て支援について、教員の立場としても保護者に寄り添って、ともに考えていきたいと思いました。
・ 具体的な内容でわかりやすかった。グループ討議の時間が短く、話し合うまでの発展がなかったのが残念。まとめの時間が急ぎ足だったので、半端な討議の時間ならば、講演時間とし、質疑応答の時間を設けた方がよい。
・ ユニバーサルに展開するといった学びが得られた。
・ 実践できそうなものが沢山あり参考になった。
・ いろいろな立場の方からの話が聞けて、大変勉強になった。

○ 全体の感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

・ 昨年に続き、２回目の参加でした。とても勉強になり、多くの発見がありました。来年もますます楽しくなるであろう、この研究セミナーに参加できるのを楽しみにしています。
・ いろんな講座があり、充実した一日でした。
・ ためになりました。
・ 来年もまた参加させていただきます。
・ 講座では、先生方のお話をもっと聞きたかったです。
・ またの機会にも参加できたらと思います。
・ 障害のある子の保護者向けのセミナー。次回も参加してみたいです。とても参考・勉強になりました。ありがとうございました。
・ 第７回目を開催していただけるならば、卒業生以外にも多くの職員が参加できるようにしたいと思います
・ とてもためになりました。ありがとうございました。
・ 普段あまり聞くことのできないお話を聞くことができて良かったと思います。
・ 充実した一日になりました。ありがとうございました
・ 初めて参加しましたが有意義な一日でした。学生さんの丁寧な案内、ありがとうございました。卒業生として、約３０年前とは全く違う明るい学内の雰囲気に驚き、学生さんの質も向上していると感じました。セミナーは具体的な実践に基づいての

内容は、参考になりました。次回もぜひ参加したいと思います。実り多い講座を期待しています。

- 講演会が大変良かった。
- 学生さんがにこやかに案内していただき、明るい雰囲気でよかった。

あ　と　が　き

第６回埼玉純真短期大学研究セミナーが皆様のご協力を得まして無事成功裡に終わることができました。誠にありがとうございました。

今回の研究セミナーは、昨年度から企画された大学の教職員による公開講座による開催を行い、さらに１講座を増やし実施されました。日頃の教職員による研究実践を踏まえ、特別支援教育を各教職員が追究しました。一部の講座では、その道に優れた実績をもつ指導者のご意見をいただき行いました。まだまだ未熟な実践ですが、現在の時点では私たちにとっては精一杯の内容だったと考えています。このセミナーにおきまして皆さまから貴重なご意見をうかがい、さらに私たちの研究が深まったと思っています。沢山の地域の皆さまの参加を得て、多くのことを学べたセミナーになりました。

このセミナーを開催するに当たりましては、埼玉県教育委員会、羽生市教育委員会、加須市教育委員会、行田市教育委員会、熊谷市教育委員会、埼玉県特別支援教育研究会の皆様にご後援を賜り、またご指導をいただき、さらにチラシのご案内等にまでご協力賜り心から感謝申しあげます。

また、近隣市町村から大勢の方の参加を得、盛大に行われましたことに喜びと本学の地域への役割の重要性を改めて感じています。

さらに、全体会でご講演をいただきました　アスリート(マラソンランナー)　金子遼様、父　金子準一郎様、　母　金子亜矢子様、優れた教育実践をご発表いただきました　さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティアアドバイザー　浅川光行様はじめボランティアの皆様、第１公開講座の発達支援教室ビリーブ代表・文教大学講師　加藤博之様、第３公開講座の加須市教育委員会学校教育部主幹兼指導主事　藤井真仁様、第４公開講座の全国ＬＤ親の会埼玉親の会「麦」代表　矢崎弘美様、より貴重なご指導を賜りましたことに重ねて御礼申し上げます。

本学の研究につきましては、日々研鑽を重ねているところですが、このセミナーを機会にさらに努力していきたいと考えています。

今後とも特別支援教育の要となって地域に引き続き貢献していきたいと考えているところです。

これからもご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。

第６回研究セミナー実行委員長　伊藤道雄

第６回（平成２８年度）埼玉純真短期大学研究セミナー報告書

発行日　　平成２９年　３月３１日
編　集　　埼玉純真短期大学研究セミナー実行委員会
印　刷　　福田印刷所
発　行　　埼玉純真短期大学
〒３４８－００４５　埼玉県羽生市下岩瀬４３０番地
TEL　０４８－５６２－０７１１

Junshin

埼玉純真短期大学